

英國
初學教育條例

一

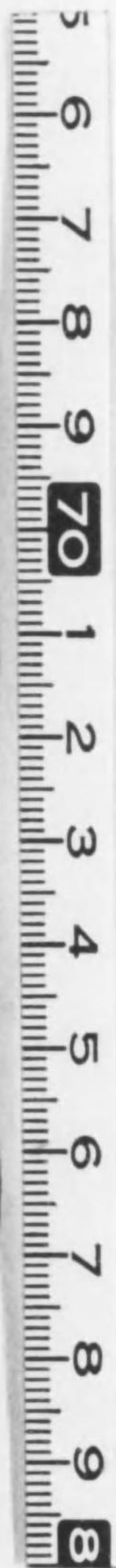
特279-308



1200501132328

279

308



始



#279
308

增訂第七回出版初學教育條例序

抑此書ハ第一回新刊ノ始既ニ緒言ヲ卷首ニ冠
シ頗ル書中ノ要畧ヲ撮舉シ該條例中各款ノ次
序ヲ分明ニシ讀者ヲシテ容易ニ瞭然スルヲ得
セシメリ蓋其緒言ハ載セテ後葉ニ在リ
既ニ六回ノ增補ヲ經テ註解附録等愈詳精ヲ加
ヘ今日ニ至ルマテ大ニ世ニ公行スルヲ得タリ
校地條例ヲ始メ諸條例ノ中成文律ト相關涉ス
ル条歟アルモノハ傍註附録ニ由テ之ヲ登錄ス
凡統學院舊本如省本部ニ於テ學務局ノ諸願請及ヒ

該局吏員撰舉等ノ事ニ就キ院ヨリ下セル指令
ヲ始メ公會ノ杜訂議院新法令一千八百七十年制定ノ者濟
貧事務局布告書又學務局ノ會計ニ就キ統學院
ヨリノ指令及ヒ學校造營校具準備ノ方法ヨリ
學校ヲ他ニ交與スル法則ニ於ケル其他增訂律
書學務局簿冊等ノ事ニ至ルマテ此七次發刊ノ
時ニ及ヒ大ニ完全ノ成規ヲ得タリ
蓋此書タルヤ訂補ヲ經ル斯ニ七回故ヲ以テ大
ニ世ノ稱譽ヲ得普ク布行スルニ到リシハ實ニ
欣喜ノ極世ノ為メニ欽謝ヒサレヲ得サルナリ

第一回新刊初學教育條例緒言

一千八百七十年二月十七日教育事務監督副長
「フォルステル」氏ナル者英倫威勒西國ニ於テ初學
教育ノ規制ヲ艸シ之ヲ下院ニ呈シ頗ル論議ヲ
盡シ多少加削ノ後七月二十二日第三回ノ會議
ニ及テ遂ニ之ヲ決シ始メテ上院ニ上シ上院ノ
商議ヲ經テ終ニ國王ノ親裁ヲ受クルニ到レリ
蓋右「フォルステル」氏所論方法ノ主眼タルモノハ
則チ英威兩國各地方ニ於テ如童ノ為メニ初學
學校ヲ設ケ校用一切ノ準備ヲ整成保全セント

欲スル所ニシテ此條例中各條款ニ就キ具サニ
其効驗ヲ論セシモノタリ下段ニ舉示スル所ノ
モノハ迺其所論ニ係レハ之ヲ以テ果シテ整成
保全ス可キヤ否ヲ了知スルヲ要ス

學區ヲ分置スル事

此條例ニ依レハ英威兩國國境內ハ分テ各地方
ニ區別シ名ツケテ何學區何學區ト稱ス而シテ
其學區ハ府縣ヲ論セス皆一千八百三十五年ノ
縣地條例ニ由テ定ムルモノ然レモ特リ「キス
ホルド」ノ一地方ハ府ナラス縣ナラザルノ故ヲ

以テ之ヲ加ヘス加之府中ニ在テモ濟貧稅地下解

ルニ見ニシテ縣會條例中ニ加ハラサルモノハ之

ヲ省ク第四章ヲ見ル可シ

又一ノ濟貧稅地アツテ一半ハ縣會條例中ニ在

リ一半ハ其外ニ在ル中ハ其外ニ在ルモノハ如

キハ唯濟貧稅地ヲ以テ視學區內ニ加入セス第

七十七章ヲ見ルヘシ又統學院ノ所見ニ由テ必

ズ其便宜ナルヲ見ル中ハ二學區三學區相接近

スルモノヲ合併シ聯合學區ト為スヲ得ヘシ

第五十五葉ヲ見ルヘシ而シテ既ニ合シテ聯合

學區ト為ス片ハ亦之ヲ一學區ト視為ス第四十
章ヲ見ル可シ

學務局未置前學務處分ノ事

既ニ此ノ如ク學區ヲ分置スル片ハ區中幼稚ノ
利益ヲ圖リ公立初學々校ヲ設ケ百事ヲ準備ス
ルコトハ統學院之ヲ任セサルヲ得ス其未夕學務
局ノ設ケアラサルヲ以テナリ蓋統學院若シ之
ヲ管理セサル片ハ初學教育ノ事務ニ於テ其准
備ヲ得ルニ由ナキヲミ
夫レ初學々校ノ名ハ本校分校ヲ問ハス特ニ初

學ヲ教育スルヲ以テ專トスルモノナレハ生徒
ノ學資金ノ如キハ固リ多キヲ要セサルモノ是
故ニ其學費トシテ各書生ヨリ一週間九「ペンス」
以上ヲ收納スルモノニ到テハ此初學々校ノ管
スル所ニ非サルナリ第三章ヲ見ル可シ
此書條例ノ成規ニ副ヘル初學々校ハ則チ真個
ノ初學々校ニシテ他何學校ヲ論セス一千八百
七十一年三月三十一日以後此約束ト相合セサ
ルモノハ之ヲ公會ノ允許ト扶助金トヲ得可ラ
サルモノトス

抑其學務局未置前ノ諸規條ト言フモノハ大率
下段ノ如シ

第一凡初學々校ニ児童ヲ入校セシムルニ於ケ
ル下ノ三款ノ莫ノ如キハ該校取テ關係アラサ
ルモノトス

一凡ソ児童ヲシテ日曜日學校法教禮拜堂等
へ出席セシメ又ハ其出席ヲ制スル事

二父兄ノ命ニ由テ退去シ校内ニ在ラサル片
教法上ノ儀禮ヲ行ヒ若クハ學校ト他處ト
ヲ問ハス毎ニ法教上ノ訓誨ニ留意セシメ

シト欲スル事

三父兄ノ神事崇奉ノ為メ法教社會ヲ立テ其
社ニ於テ法教上ノ儀禮ヲ行ハシカ為メ別
ニ定日ヲ置キ児童ヲシテ之ニ出席セシム
ル事

第二學校ニ於テ法教上ノ旨趣ヲ講シ及ヒ之
カ儀禮ヲ訓フルハ或ハ授業ノ始ニ於テシ或ハ
課程ノ終ニ於テス蓋其期限ハ統學院ノ指令ヲ
受ケ期限表ニ挿書シ變換ナキヲ要トス加之校
内各室ニ之ヲ揭示ス可シ

父兄ノ命スル所ニ由テ右法教上ノ儀禮教誨等
ヲ授クテナル者ト虽凡苟モ入校スル以上ハ校
中ノ諸則ハ一切ニ遵行セシメナルヲ得ス
第三 既ニ學校ヲ設立スル片ハ何時ヲ限ラズ
國王親差監察官職ニノ検査ヲ受ク可キ准備
ナル可ラズ然レ凡其監察官ノ查簡スルハ
專ラ校内ノ景況ヲ概視スルニ在レハ學課法教
授業上ニ就テ旨趣ヲ論討シ書籍ヲ盤點シ以テ
學生ヲ試験スル等ノ事ニ及フニ非ラズ是等ノ
事ハ監察官ノ職掌中ニ與カラサルモノトス

第四 今爰ニ一學校ヲ開ケハ庶事其法制ヲ設
定シ實際ニ履行スヘキ規則ヲ以テ之ヲ管理ス
ルヲ要トス輒チ以テ年々公會ノ寄附ヲ受クル
ヲ得ヘシ第七章ヲ見ル可シ

各學區必要ノ學校供給明細録ノ公告ニ就テハ
統學院ニ於テ院ノ所要ヲ指示シ何案件ヲ限ラ
ズ之ヲ其申狀ニ即明細具陳シ以テ呈上セシム
可キ權理ヲ有ス第八章及ヒ第六十七章ヲ參看
スヘシ

右ノ申狀ヲ編成スルハ一千八百七十一年前ヨ

リ首府ノ外ハ各地方有司ノ擔當ス可キモノト
ス而シテ首府ニ於テハ學務局々長ヲ撰擧スル
以前四月ニ及ハスシテ之ヲ編成スルヲ法トス
第十八章ヲ見ル可シ而シテ其申狀ノ体裁ニ到
テハ統學院之ヲ示スヲ要トス第六十八章ヲ見
ル可シ

申狀編成ノ任ハ首府ニ於テハ學務局之ヲ掌リ
縣地ハ縣會ニ於テ之ヲ作ル然レモ獨リチキス
ホルトニ於テハ該地ノ政廳ニ於テス又各地方
中其濟貧稅地ニ屬スルモノハ該地監事者之ヲ

任シ以テ貧民監督官及ヒ統學院ノ所要ヲ擔當
スルヲ法トス第六十九章ヲ見ル可シ

地方官ハ其地所在學校管理者教師長トナシテ
此條例ノ定制ニ從ヒ申狀ヲ作ラシム可キ權ヲ
有ス第六十八章ヲ見ルヘシ

又地方官ニ於テハ統學院ノ批准ヲ以テ所謂申
狀ヲ作成スルカ為メニ之カ助力人ヲ命シ使用
スルヲ得可ク而シテ其助力人ノ給資等ハ大藏
省許可ノ酬勞金ヲ以テ之ヲ支辨ス蓋此酬勞金
ヲ始メ申狀作成上所用ノ冗費ニシテ大藏省ノ

許可ヲ得ル所ノモノハ都テ統學院ヨリ之ヲ償却ス可キモノトス第六十九章ヲ見ルヘシ
地方官ニ於テ統學院ノ指令ヲ受ケ申狀ヲ作ルニ及ヒ過謬ヲツテ所要ノ如ク作り得ナル片ハ統學院ヨリ更ニ之カ為メ吏員ヲ撰命スルト得ル可シ第七十章ヲ見ル可シ加之申狀ノ精完ヲ得ルト得ナルトヲ察シ且其狀中擧クル所ノ各學校ニ於ケル百事ノ當否實効如何ヲ視又ハ狀中遺漏ヲツテ其當否實効ヲ視ル可ラナルト有ル等都テ申狀ノ分明詳精ヲ得ニカ為メ統學院

ニキイテ之カ検査官ヲ命シ調査セシムルヲ得可シ而シテ其検査官ハ特ニ申狀調査ノ責ノミナラス生徒ヲ試験スルヲ得可シ若シ又右申狀ヲ上呈セサル地方ノ如キハ彼ノ過謬アル申狀ヲ出タスモノト同視シ検査官之カ処分ヲ為スヲ得ヘシ第七十一条ヲ見ル可シ
統學院既ニ申狀ヲ受クル片ハ之ニ由テ各地方公立學校事物供給ノ事ニ就テ其要需スル所如何ヲ注意シ各校エトノ適宜ヲ察シ詳カニ其情實ヲ洞視スルヲ要ス然レモ其學校ノ公立ノ者

カ否テナルカヲ始メ校地ノ學區内ニ屬スト屬
セナルトノ如キ其他該校ノ果シテ兒童ノ教育
ニ適スルヤ否ヨリ實效ノ視ル可キ有リヤ無キ
ヤニ至ルマテ現在ニ就テ之ヲ監ミ後來完全ノ
後ヲ以テ察スル等都テ此ノ如キ手段ニ到テハ
統學院ノ視察ヲ要スル所ニ非ナルモノトス第
八章ヲ見ルベシ

以上ノ諸事ニ關係セナルモノト為ス所ノモノ
ハ借令ハ該校管理者若クハ教師輩ノ其地方官
ヨリ要スル所ノ申狀ノ規則ヲ遵守セズ動モス

レハ怠慢疎略ニ附シ又ハ統學院ノ命ニ由テ檢
査官ヲ遣シ學堂ヲ檢査シ生徒ヲ試檢シ校籍校
誌類ヲ點檢セシムルニ及テ之ヲ拒ム等ノト
ルハ其學校ハ之ヲ該地ニ於テ實益アル初學
教育ヲ為シ得ルモノト視為サハルナリ第十二
章ヲ參看スベシ

又統學院ニ於テ其地方公立學校事物供給ノ責
ニ關シ第一學校ノ敷ヲ始メ學室ノ廣狹ヨリ其
他何事物ニ限ラズ供給物品ノ惣額種類等其裨
益ヲ度慮シ院ノ所見ヲ以テ果シテ必要便宜ナ

リトスルモノハ決議ヲ以テ之ヲ公布スヘシ第
九章ヲ参看セヨ

又納税上貧民、為メニ出税セシムルニ於テ其
全額ノ該地租税全額ノ三分一以上ニ及ヒ由テ
物議ヲ生シ出税人中論者ノ十名以上ニ到ルハ
ハ出税人ヨリ之ヲ統學院ニ告訴シ公然查監ヲ
受ケルヲ得セシム是時ニ方テハ統學院ヨリ
之ヲ查勘スルノ布令ヲ下タシ而シテ后實際ニ
就テ之ヲ公議ス可シ蓋出税人ノミナラズ學校
管理者ノ所見モ其憂ヲ可キヲ認ルハ同シク

愁訴スルヲ得ヘシ然リト虽モ其公告後一月
ヲ過ルハ共ニ之ヲ得サルヲ法トス第九章ヲ
見ル可シ

然リ而シテ其訴願ノ為メニ更メテ查勘スルニ
到ルハ先ツ為ス可キノ処分アリ其法其訴願
人ヲシテ苟モ公然查勘スルノ後ハ其公決ノ費
額ハ必ス出金スヘキ保証ヲ出サシムルヲ是ナ
リ是其統學院ニ於テ既ニ查勘ヲ經ル以上ハ所
要ノ費用ハ其訴願人ヲシテ擔負セシムルノ當
然ナルヲ視ルカ故ナリ第七十三章ヲ見ル可

シ
抑此查監ヲ行フハ統學院ヨリ命セラル、所
ノ吏負之ヲ擔任シ其學區近傍ニ於テ便宜ノ地
ヲ擇ヒ之ヲ行フ蓋其日ニ先ツテ七日前之ヲ公
告シ各校ニ報知ス若シ又故アツテ其期ニ於テ
シ難キハ延遷スルモ妨ナシ而シテ其委負ハ
之ニ臨ミ現ニ查監スルニ當テハ訴願上他ノ信
微アツテ言フ所ノ論說ニ就キ委曲ニ其事實ヲ
監察スルヲ要トス而シテ既ニ查監ノ事了レハ
検査官其結局歸着スル所ヲ書記シテ之ヲ統學

院ニ申報ス其報書ニハ查監上ノ論議建言ヲ始
メ之ニ自己ノ意見ヲ附シ且一般ノ旨趣ニ就テ
自己ノ所見ト其所見ノ由テ起ル所ノ原由等ヲ
詳録スヘシ統學院其中狀ヲ抄寫シテ縣地市街
ノ書記生濟貧稅地幹事等ニ頒與ス而シテ后更
ニ申狀ヲ頒布スルヲ報告ヲ發ス可キナリ第
七十三章ヲ見ル可シ蓋其查監ノ費用償却ノ方
法ハ第三十三葉ニ詳ニス
又其學區公立學校供給ノ事ニ統學院ヨリ決定
ノ報告ヲ公布シ既ニ發告後一月ヲ經ルニ到リ

別ニ查監ス可キ事ナク或ハ查監ノ既ニ畢ルモ
ノナレハ該院ヨリ更ニ結尾ノ報告ヲ發シ其供
給ノ不足ヲ示シ命令ヲ以テ其報告上ニ載スル
所ノ供給費ヲ準備セシムルヲ得ヘシ第九章ヲ
見ル可シ

右結尾ノ報告ヲ為ス後一期限六月間ノ盡ク
ルニ及ビ其實際ノ景況ヲ視テ其準備ノ全カク
ナルヲ察シ通常ノ公告書ヲ以テスルノミニテ
ハ準備完全ノ地位ニ進趨ス可キ道路ヲ得ナル
ヲ認メ此ノ如キ而已ナレバハ到底情態ノ之ニ

達ス可クナルヲ知ルアレハ則チ院ノ決議ヲ
以テ該地ニ一學務局ヲ設置スルヲ得第十章
ヲ見ル可シ

統學院ニ於テ以上各般ノ処分ヲ施行スルヲハ
特ニ第一回ノ申狀ヲ領收スル片ニ於テスルノ
ミナラス後來何レノ年ト虽凡苟モ事故アルニ
當テハ隨時之ヲ行フヲ得ヘシ第十三章ヲ見
ル可シ

抑以下辨明スル所ノ條例ハ旨意ハ學務局ヲシ
テ必ス児童ヲ學校ニ入ラシム可キ訂補律書ヲ

作ラシメ又ハ父母ノ貧困ニシテ其子ノ謝金ヲ
給スル能ハサルモノハ該局ヲシテ之ヲ補支セ
シメ或ハ從來私立ヲ以テ設立維持スル所ノ學
校ヲ更メテ學務局ニ交付シ學務局附屬ノモノ
トシ該局ヲシテ之ヲ調理セシムル等ノ事ヲ説
示スルモノナリ蓋何學區ヲ問ハス公立學校供
給ノ充備スルモノハ之ニ學務局ヲ設ケ學事關
係ノ權カヲ附スルヲ可トス而シテ他ノ各學區
ニ於テモ學校供給ノ事ハ勉メテ盛大増加セン
トヲ懇通シ且其盛大ヲ欲セハ學務局ヲ設置ス

ルニ在ルヲ知ラシムルヲ要ス
右學務局設置等ノ諸件ハ第十二章ニ詳ニスト
虽凡令該章ノ意ヲ此ニ畧記シ其方法ヲ了セシ
ムルヲ左ノ如シ

今一學區アツテ統學院ノ允許ヲ得學務局ヲ
設ケント欲スル片ハ則其區中ニ於テ學務局
吏員ヲ撰擧スルノ權アル者之ヲ任ス又縣地
ニ在テハ公會ニ於テ之ヲ擔當ス第九葉ヲ觀
ル可シ

又某學區アリ其初學々校ノ管理者輩動スレ

ハ其學校ヲ廢セント欲シ供給ノ備ハラサル
ヲ愁ヒ然レハ維持保全ノ方法ヲ立ツルヲ得
ス或ハ之ヲ等閑ニ附シテ注意セサル等ノ情
態アルニ至レハ統學院ニ請テ該區ニ學務局
ヲ設置セサル可キス

蓋右統學院ニ請テ學務局ヲ設クルニ當テハ統
學院ヨリ先ツ其吏實ヲ查監スルノ報告ヲ送ス
可シ而シテ此查監ノ畢ルマテハ尋常ノ報告類
ハ且テク之ヲ停止シテ可ナリ

蓋其縣地公會ヨリ願請スル中ノ方法ハ其公會

出席ノ議員中平生會議ニ與カル者而已ニシテ
之ヲ商議シ其同論ノ多數ヲ以テ之ヲ決シ以テ
統學院ニ上ス又學務局吏實ヲ撰擧ス可キ人ヨ
リスルハ其議定スル所ヲ以テ一週前先ツ之
ヲ公告シ而シテ后之ヲ決シ初テ願請上申スル
ヲ得可シ其方法ハ學務局ノ委員ヲ撰擧スルト
同一ノ方法ヲ以テシ只統學院ノ命令中所要ノ
件々ヲ失ハサテニ要スルニ在ル而已

縣地ノ縣廳アルモノニ於テ右願請ノ吏ヲ行
フ中ハ統學院定制學務局關係諸願一般ノ規

則ニ從フキ法トス首府中ノ濟貧稅地ニ於ケルモ又然リ但其規則ハ附錄第二百四葉ニ出
タス

若シ其議定スル所ノ者ニシテ稍障礙スル所
ルモノ有ルモ猥リニ之ヲ論議スルヲ得ス必ス
十二月ヲ經過スルヲ俟テ而シテ后之ヲ再議ス
縣地濟貧稅地等ニテ學務局設置ノ允許ヲ受ク
ル所ハ統學院ニ於テ何時ヲ限ラズ之力為メ市
尹其他ノ有司ヲ選舉シ委員ト為シ學務局新置
所要ノ吏務ヲ執ラシムルヲ得ヘシ若シ其安

員ノ過失ヲツテ吏業ノ擧カヲナル所ハ更ニ別
員ヲ擢命スルモ妨ナシトス第三十一章ヲ見ル
可シ

學務局ヲ設置スル事

允テ學務局ノ吏員ハ「キスホルド」ヲ除クノ外
諸縣地ニ於テ現ニ存在セル人民ノ名簿中ニ記
載スル者ニ限り以テ撰擧スル所ノモノニシテ
其初ニ於テハ其人員五名ヨリ少カラス十五名
ヨリ多カラザルキ法トス此レ統學院ノ制定ス
ル所ト雖モ後日ニ至リ該院ノ准許ヲ以テ學務

局適宜ノ評決ニ因リ之ヲ改正スルヲ得ルニ
 至レリ(第九十三章ヲ參者スヘシ)
 ヲキスホルトニ於テ學務局ヲ設置セント欲ス
 レハ其局員三分ノ一ハ該地大學校ニ依テ撰擧
 セラル可シ若リハ中學校及ヒ學堂ヨリ撰擧セ
 テルハトアルモノトス可シ此又統學院ノ命令
 シ得ヘキ所ナリ(第九十三章ヲ參者スヘシ)
 首府中若リハ政廳ヲ設ケタル縣地ノ所轄ニ屬
 セサル濟貧稅地ニ於テハ獨リ諸稅ヲ貢納スル
 良民ノ學務局員ノ撰擧ニ與ル可キ者トス且

其縣地學務局々員ノ名數ニ關スル款條ノ如キ
 ハ移シテ濟貧稅地ノ學務局ニ適用スルヲ得可
 シ(第二十九章第三十三章ヲ參者スヘシ)
 聯合學區(統學院ノ命令ニ因テ編成スル者)ニ於
 テハ初回ノ撰擧ニ臨テ其委員々數ノ如キハ統
 學院之ヲ制定スト虽モ後日ニ至テハ亦該院ノ
 准許ニ因リ學務局ノ評決ヲ以テ之ヲ變更スル
 ヲ得ヘシ蓋シ聯合學區内ノ所轄ニ係リタル人
 ニメ若シ此聯合内ニ在ラサルモ委員撰擧ノ際
 ニ於テ發言投票スルヲラントスルノ輩ハ尚以

テ撰者ノ一二居ル者トス(第四十九章ヲ參着ス
ヘシ)

凡ソ濟貧稅地ノ狹少ニシテ僅ニ三四処以内十
ル如キハ學務局ノ局員ヲ撰擧スルニ當テ其發
言投票等ハ統學院ヨリ他ノ聯合學區内ニ在ル
濟貧稅地ト共ニ合併スルヲ得ルモノトス(第四
十八章ヲ參着スヘシ)

若シ一個ノ濟貧稅地ニシテ其一部ハ縣地ノ中
ニ在リ一部ハ縣地ノ外ニ在ル所ノ納稅人アレ
ハ學務局員ヲ撰擧スルニ當テハ別地ノ住民タ

ルノ方法ニ從フテ相會スルヲ得ルモノトス(第
七十七章ヲ參着ス可シ)

統學院(以後ニ記載セル如シ)第二十六葉ヲ觀ル
ヘシ)ハ一學區ヲシテ自餘ノ一學區内若クハ諸
學區内ニ存スル公立初學々校ノ預備維持等ノ
事ニ就キ保助ヲ命スルノ權ヲ有ス而シテ其學
區委員ノ數ノ如キハ統學院之ヲ定メ而シテ之ヲ
撰擧スルニ至テハ其學區内ノ人之ヲ執行スル
ヲ例トス斯ノ如キ委員ハ保助學區ノ學務局ニ
依テ撰擧ス可シ萬一斯ノ如キ學務局ノ設ケ無

キハハ則チ學務局員ヲ撰擧シ得ヘキ者ヲシテ撰擧セシムヘキモノトス第五十章ヲ參看スヘシ

首府學務局即チ倫敦ノ學務局ト稱スル所ノ者ハ左ニ記スル所ノ區分ニ依テ擇ハレタル委員ヨリ成立スル者ナリ乃チ「ノーリー」「ボーン」「フリン」「スベリー」「ランベス」「タウウエル」「ハムレット」「バック」「ホー」「ウエスト」「ミニストル」「サチス」「ウール」「ク」「シチー」トスロンドン「チェリシー」及ヒ「グリニウ」「イツ」チ是レナリ其各區分及ヒ區分ノ境界ヲ定ムル為ニ撰擧セラル

ヘキ委員ノ員數ハ統學院之ヲ決定ス

一千八百七十年十一月七日發行統學院ノ規則中學區ノ境界委員ノ員數ヲ論辨セルモノ第一百八十葉ヲ看ルヘシ

倫敦府ニ於テハ學務局ノ委員ハ普通公會ト同一般ノ人ヲ撰ヒ同一般ノ方法ニ依ルベシ而メ自餘ノ區分ニ至テハ首府監督條例ニ後フテ教會執事ヲ撰擧スル者ト同一般ノ人同一般ノ方法ニ依テ撰擧ス可シ

然リト雖モ一千八百七十一年九月一日以前ニ

於テ統學院ヨリ學務局員ヲ撰擧スルニ関セル
條例中ノ數條ニ遵フテ普通公會人及ヒ教會執
事ヲ撰擧スルノ事ハ既ニ之ヲ廢止ス

統學院ヨリ公告セル倫敦學務局員初回撰擧
關係ノ規則ノ如キハ附錄第一百八十三葉中
ニ就テ省ルヲ要ス

撰擧規則ヲ布告スルニ關係セル統學院權限
ノ如キハ一千八百七十二年九月ニ至ル迄遵
奉セル「ヴィクトリヤ」女王律令昏九十四篇三十
四号及ヒ三十五號第一百四十九葉ニ就テ省

ル可シ

縣地若クハ濟貧稅地ニ於テ學務局員ヲ撰擧ス
ルニ當ツテ其投票人ハ該地方撰擧委員ノ員數
ニ等キ投票ノ數ヲ以テスルヲ許ス特リ首府ニ
在テハ然ラズ其投票人ハ諸稅ヲ貢納スル良民
ニノミ限ル可シ蓋シ投票ハ一個ノ候政者仕官
者望シテ其員ヲ視候スルニ與フルヲ得亦數個
者通撰擧スベキ人ヲ候言フルニ與フルヲ得亦數個
二分與スルヲ得ルモノトス（第二十九章第三十
七章ヲ參看スヘシ）

一千八百七十一年九月一日以前ニ於テ學務局

員ヲ撰擧スルヤ渾ヘテ統學院ヨリ布告スル所ノ時限ト方法トニ依リ及ヒ該院ノ編成セル規條ニ遵由シテ行フヲ例トス

倫敦學務局縣地學務局及ヒ縣地ノ政廳アル者若リハ首府管轄外ノ學務局ノ委員撰擧ニ關シテ統學院ヨリ布告セル規條ハ附録第百八十三葉第百九十八葉第二百零十葉等ニ掲載ス

統學院ハ撰擧ノ目的ヲ完成セシカ為メ要ノ有司ニ就キ其職務處分等ヲ決定シ之ヲ指令ス

ルヲ得ルモトス其他撰擧ニ關スル所ノ者ハ平常預備非常應用ヲ論セス一切之ヲ施行シ得ヘシ

統學院ヨリ三年毎ニ學務局員退職期日ヲ決定ス其退職スル者ハ初回撰擧確定ノ日ヨリ三箇年間期限盡日ノ翌日ヲ以テ退職ノ日トシ以テ其任ヲ解ク可シ而シテ其新撰ニ中リ更ニ昇局奉任スル者ハ前人退職ノ日ヨリ合算シテ亦三ヶ年間在職ス可シ但倫敦學務局ノ如キハ此例ニ在ラス第二追加條目ヲ參着ス可シ

首府倫敦學務局員ノ初回撰擧期日ヲ決定スル
ハ統學院ノ権限内ニ帰スルモノトス

統學院ヨリ決定シタル期日ハ乃午一千八百
七十年第十一月二十九日ナリ

撰擧規則ニ関スル所ノ統學院権限章程ハ一

千八百七十二年九月一日ニ至ル迄遵守スル

所ノ「ヴィクトリア」女王律令昏第九十四篇三十

四五兩号一百四十九葉ニ就テ着ル可シ

後回ノ撰擧ハ一切學務局ヨリ命セウレタル日

ヨリ各毎三年十一月ニ於テ行フ可シ(第三十七

章ヲ着ルベシ)而メ十二月一日ヲ以テ局員退職

ノ日ト確定ス(第三追加条目ヲ着ルヘシ)

倫敦學務局ハ該局員ヨリ或ハ他人ヨリシテ自

ラ局長ヲ撰擧スルノ権ヲ有ス若シ其局長該局

員ノ撰擧ニ係ラサレハ政府ヨリ之ヲ命ス而メ

其俸給ノ如キハ統學院之ヲ決定スヘシ(第三十

七八兩章ヲ參着ス可シ)

學務局ノ一員ニメ一時ノ疾病若クハ該局ヨリ

准可ヲ得ルヘキノ原因アラヌメ六箇月間相續

テ該局ノ大集會ニ出頭セサル者若クハ罪過ヲ

犯シ為ノニ禁獄ヲ以テ罰セラル、者若クハ破
産人ト視為ナ、ル者若クハ債主員ヒテ債主ト
私議ヲ構ル者等ハ事ノ輕重ヲ論セス一切其職
ヲ曠フスル者ト者做ナ、ルヲ得ナルモトス
〔第二追加条目〕者ル可シ學務局ノ一員タル者
若クハ該局ヨリ命セラレタル一個ノ學監ニノ
利益ヲ私スルニ足ルヘキ地位ヲ得テ奸曲私利
ヲ謀リ結局之ヲ學務局ノ所為ニ帰セントスル
カ若クハ該局ヨリ命セラレタル學監タルヲ以
テ事ヲ任スルニ當リ局名官名等ヲ假リ之ヲ保

証ニ充テ私ニ賣買契約ヲ為シ其利錢ヲ分クン
トヲ謀リ或ハ之ニ關係セシトヲ欲スル等若其
罪狀明白ニノ証左ノ録ス可キアレハ當ニ其職
ヲ曠フスルト視為ス、ルナラス五十弗ノ贖銀
ヲ追徴スルヲ法トス然ト虽モ以上諸法則ノ如
キハ土地ヲ賣却スルト或ハ學務局員ニ金貨ヲ
貸與スルト若クハ數輩ノ局員相共ニ結社シテ
賣買ノ條約ヲ為シ或ハ右會社ニ就テ發起セル
事件若クハ學務局ノ一員并ヒニ該局ヨリ命セ
ラレタル學監等相共ニ結社シテ刷行スル所ノ

ノ新聞紙上ニ投啓稟告ヲ加ヘテ其事實上ハ諛
人ノ意見發論ニ係關セサル等ノ如キ諸件ニ至
テハ毫モ関涉波及セサル者トス(第三十四章ヲ
參看スヘシ)

若シ學務局ノ一員タル者諸人權利上ニ関涉セ
ル議論ヲ發スルトアルハ統學院必ズ之ヲ簡
查シ以テ其是非得失ヲ判決ス可シ既ニ統學院
ヨリ下シタル命令ノ如キハ後日ニ次回會議ニ
至テ廢除セラルルニ非レハ之ヲ永々施行ス可
キモノトス(第三十三章ヲ參看ス可シ)

局員撰擧ノ際ニ當リ失錯ナカラシメシカ為メ
諸方預メ盟約ヲ固フスルヲ要ス且以テ臨時故
員ヲ補填スルニ當テモ總テ其約ニ從ハサルヲ
得サルモノトス

又地方ノ學務局ナル者ハ的然信ノ印アル所ノ
便宜ノ土地ヲ得之ヲ恒久永世ニ保存ス可キ權
利ヲ有スルモノトス

學務局諸有司ノ事

夫レ學務局ハ書記會計及ヒ教官ヨリ其他須要
ノ諸有司ヲ撰命スルヲ得ヘキモノニシテ其該

局ノ撰擧ニ中リタル有司ハ夙夜電勉其職ヲ奉
シ決メ尸素苟且セス以テ其任ヲ擔當シ以テ該
局ヨリ相當ノ俸給ヲ以テ之ニ給與ス而シテ其
學務局ノ二個以上アルモノト虽氏相互ニ協議
和合シテ同有司ヲ使役スルヲ得ヘキモノト
ス(第三十五章ヲ見ルヘシ)

凡兒童ヲシテ日々能ク學業ニ從事シ勉メテ法
則ニ遵由セシメシメシカ為メ別ニ有司ヲ命ジ之ヲ
專任セシムルヲ要ス又ハ兒童ヲ工業學校ニ入
テシムルニ於テ之カ事務ヲ処分スルモ亦別ニ

吏員ヲ備フルヲ至可トス

學務局事務章程ノ事

學務局ニ於テハ其集會及ヒ庶務ノ管理處分ニ
就テ更ニ一箇ノ規條ヲ設クルアリ蓋シ其規條
中論スル所ヲ見レハ凡ソ必須ト看做シタル事
務ニ就テハ既ニ其法ヲ設ケ成シ更ニ其細目ニ
及ホシ此規則制定セシ者タルヲ知ル(第三追加
条目ヲ省ルベシ)

該局ノ處分ハ其局中人員ノ少ナキヲ以テノ故
ニ設若ヒ些末ノ失誤アルモ之ヲ難詰スルヲ得

ナル者トシ又該局員ヲ撰擧スルニ當テ適鑒定
ヲ過ツテ至當ヲ得ナルカ或ハ過失アルモ該局
ノ失錯ト看做スヲ得スト虽氏常ニ然ルニ非ス
只彼ノ同黨同論ナル投票人該局員ヨリ過半ノ
多キニ至リ此事ニ関スルヲ許サレシ時ノミニ
限ル可シ且局長ノ鈐印セル処決文案ノ如キハ
設若ク其他ノ保証ナキモ一切合法至當ノ処置
タルモノトシ毫モ疑惑ヲ容ルヲ得ス

學校設立ノ事

學務局ヨリ學校ヲ設立セントスルニ當テハ統

以下

學院ヨリ該校供給預備ノ夏ニ就キ先ツ之ヲ指
令シ學務局其指令ニ遵奉シテ直ニ其処分ニ着
手シ終始一轍細大遺サス勉メテ完全大成セン
ヲ要シ夏々各其序ニ從フテ施行スヘシ(第十章
ヲ參看スヘシ)

倫敦學務局ノ如キハ全府中ノ各學區ヲ洩サス
其指令ヲ送致スルヲ得可シ而ノ各學區ハ該若
ク聯合スルモ自ラ其區分ヲ立テ之ヲ遞送ス可
キモ(トス)第三十七章ヲ見ル可シ
凡ソ學校供給ノ夏々全備センカ爲ニ學務局ハ

スルニ當テ適鑿定
ハ過失アルモ該局
氏常ニ然ルニ非ス
該局員ヨリ過半ノ
許ナレシ時ノニニ
起決文案ノ如キハ
切合法至當ノ処置
ルヲ得ス

トスルニ當テハ統

ニ就キ先ツ之ヲ指
テ直ニ其処分ニ着
メテ完全大成セン
施行スヘシ第十章

ハ各學區ヲ洩サス
而ノ各學區ハ該若
立テ之ヲ遞送不可
ル可シ
シカ為ニ學務局ハ

以下ナニモ多ク致す旨
執依ニ入らうとカ

他ニ依テ學區編成シ學館ヲ築造スルヲ得ヘシ
既ニ設立セル所ノ學校ハ益々廣大ニシ不抜ノ
基礎ヲ確立シテ後來絶大ノ實効ヲ奏シ至美ノ
結果ヲ収メシ為ノニ昏籍器具ヨリ凡百須要ノ
物品ヲ備ヘシヲ要ス(第十九章ヲ省ルヘシ)新
ノ如キ至大至盛ノ學校ヲ維持保存シ始終其保
護ニ専心シ日新月盛シテ其數ヲ増殖シ偏ニ供
給ヲ預備スル等ハ學務局最大ノ職務トス(十八
章ヲ省ル可シ)

學務局ニ於テ萬一學校ヲ維持保護スル等ノ職

務ニ就キ怠慢輕忽スル所アルカ或ハ供給充備
ノ方法ニ付キ過誤失錯スル等ノ虞アリト省做
セハ統學院ヨリ直ニ之ヲ糾正シ諛局ノ職務ヲ
責メ其過失ヲ竣改セシムヘシ(第十八章ヲ參省
セヨ)
學館構造ノ為メ學務局ヨリ土地ヲ買得スル
ヲ便利ニセシカ為メニハ一千八百四十五年所
定ノ土地賣買條例ト其改正例條トヲ除クノ外
ハ此條例ニ相稱ハサルモノトス
然ト虽モ土地ヲ買得スルノ權利ヲ以テ學務局

ニ與フル者ハ亦只一定ノ規則ニ由テ定ムラレ
 タル者ニシテ其一定ノ規則ノ如キハ憲法ニ根
 シテ統學院及ヒ議院ノ議決ヲ以テ定ムル所ノ
 モノタリ(第三十三章ヲ省ル可シ)
 一千八百四十一年一千八百四十四年一千八百
 四十九年一千八百五十一年四回發行校地條例
 ノ如キハ學務局ノ宜シク適用スヘキモノニシ
 テ學務局自ラ其學校ノ受托者タリ管理者タル
 ノ意ヲ以テ適宜ニ之ヲ施行スルヲ要ス(第二十
 章ヲ省ルヘシ)

今某地ニ於テ學務局ヲ設立スルニ當リ該地ニ
 從来自由適宜ノ方法ヲ以テ私立學校ヲ保有ス
 ル者アリテ該校ヲ其學務局ニ交付シ而後該局
 ノ所轄ニ屬セシメ各自ノ任ヲ解脱スルヲアリ
 斯時ニ當テハ學務局ニ在テハ其交付セル學校
 ヲ収取シ一定ノ規則ニ從テテ該校修整ノ事ニ
 注意シ其供給ヲ預備セシメテ要トス可シ然ト
 虽モ何時何事ヲ論セス斯ノ如キノ処分ハ一切
 統學院ノ指令ニ從テ可キモノニシテ決メ獨決
 擅断スルヲ得ナルモノトス若シ茲ニ毎歲該校

二納金セント欲スル者アレハ該校ニ関シ税金
 ヲ徵集セラル、者等相會議シテ三分一ノ許可
 ヲ得ル中ハ則チ之ヲ聽スヘシ又學監若クハ出
 金人ノ所有セル學校ニ就キ之カ利金ヲ以テ學
 務局ニ付與スルヲアレハ該局之ヲ受ケ或ハ其
 校ヲ以テ學務局ニ貸與スルヲアレハ時期ノ長
 短ニ拘ラス貸料ノ有無ニ関セス學務局ノ便宜
 ニ由リ随意ニ修繕等ノ事ヲ為スモ妨ナシ且又
 學校ニ附屬セル所ノ物品ヲ以テ學務局ニ買附
 シ或ハ又其校ニ負債アルモ其全額ノ所有物ノ

價格ニ踰ヘナル中ハ學務局其校ヲ受クル以上
 之ヲ償却シテ可ナリ夫レ斯ノ如ク既ニ交付セ
 ラレタル所ノ學校ハ直ニ學務局ヨリ設立セル
 者ト看做ス得ヘシ(第二十三章ヲ省ル可シ)
 二學區以上ヲ管理スル學務局ハ統學院ノ批准
 ヲ經テ各學區相通ノ需用ニ供セン為メ善良ナ
 ル學校ヲ設立シ或ハ之ヲ維持センカ為メニ數
 學區ヲ聯結セシムルヲ得ヘキモノトス(第五十
 二章ヲ省ルヘシ)

學務局理財權限ノ事

學務局ハ學校ヲ設立シ及ヒ之ヲ盛大ニスル等
ノ要件ニ関シ若干ノ費用ヲ要スルハ統學院
ノ准可ヲ經テ學校資本及ヒ土地沽券ヲ保証抵
當トシ他ニ依テ貨幣ヲ借假スルノ權ヲ有ス
其假借スル結額ヲ償還スル期限ノ如キハ五十
ケ年ニ踰ル可ラス萬一學務局其貸財主ト相共
ニ結約セハ原額子錢ヲ併セテ各年均一ノ賦還
法ニ從テ之ヲ償却スルモ妨ケナシ然レモ其期
限ハ同シク五十年ヲ踰工サルヲ要ス若シ其貸
主之ヲ皆可セサレハ毎年負債惣額五十分ノ一

ヲ儲ヘ以テ五十年ヲ過シ期ニ到テ之ヲ一時
ニ償還スルヲ要ス右ノ負債処分ハ一千八百四
十七年間發行スル所ノ委員條例中貸財主ニ関
涉セル條款ト異ナラサレモノタリ(第五十七章
ヲ參看ス可シ)

工事所要實附會社ノ委員ハ統學院ノ薦引ニ依
テ要スル所ノ貨幣ヲ貸與スル所ノモノニシテ而
メ償還期限ハ五十年ヲ越ヘズ子錢ハ各年百
トニ三箇二分ノ一乃至三分半ノ比例ヲ以テス
ヘシ(第五十七章ヲ看ルヘシ)

府廳ニ就テ學務局ヨリ要需スル所アレハ一千八百六十九年間發行府廳貸附條例ニ從フテ徵集セル所ノ賫資ヨリ分ツテ之ヲ該局ニ交付ス可シ(第五十八章ヲ省ル可シ)

凡學務局貸ニシテ統學院ノ指令アル所ハ第二十四葉ヲ省(他ニ負債ヲ為シ學校資本等ヲ假借スルコトアル可ラス蓋該院ニ向テ要請シ得院ノ保証シ得ヘキ公債ノ如キハ此限ニ非ラス(第六十九章ヲ省ルヘシ)

學務局學校轉移廢止処分ノ事

統學院ノ批准ヲ以テ設立セル學校ニシテ學務局之ヲ不要冗長ナリト視為スコト有レハ之ヲ廢止スルヲ得ヘシ加之住民ノ便利ト土地ノ適宜トヲ計リテ其位置ヲ轉移スルヲ得ヘシ(第十八章ヲ參看スヘシ)

一千八百五十三年ヨリ一千八百六十九年ニ至ルマテ其間行レシ所ノ濟貧條例ニ據ルニ學務局所屬ノ學校ニシテ該局ノ須要トセアル所ノモノハ其土地ヲ併セ沽却貸與交換スルコトヲ得ヘキモノトス此條例ノ旨趣ニ於テハ統學院之

ヲ用井濟貧事務委員ニ代フル可キモノトス(第
二十二章ヲ省ル可シ)

第二十三章ノ條款(第十九葉)ニ從ヒ學監ヨリ其
以前學務局ニ交與セシ所ノ學校ヲ以テ更ニ復
タ之ヲ他ノ學監ニ交附セントスルヲアルニ當
リ他ニ障礙ナキ者ト視為ス片ハ一定ノ規則ニ
從フテ之ヲ処分ス可シ但シ統學院ノ批准ヲ經
ルニ非ナレハ施行ス可ラス而メ此准許ノ如キ
ハ曾テ學務局ニ依テ募ラレタル負債ノ外該校
ニ於テ消耗セシ金額等ハ交與ノ際ニ當テ尽ク

償却シ了リシカ或ハ確乎償却法ノ目的ヲ定メ
タルカ共ニ出納授受ノ間ニ於テ一ノ故障ナキ
ニ非シハ容易ニ統學院ヨリ付與セサルモノト
ス既ニ斯ノ如ク交與ナレタル學校ノ如キハ勿
論學務局設立ニ係リタル者ト省做サハルヘシ
(第二十四章ヲ省ル可シ)

學務局ヨリ學監ヲ命スル事

若シ學務局ノ所見果シテ之ヲ便宜ト考定スル
所アルハ學監ヲ命シ該局ノ統轄内ニ係ル所ノ
諸學校監督指揮等ノ事務ヲ以テ之ニ委託シ其

他條例中掲載スル所百事ヲ任セシム但シ金貨募集等ニ関涉セル権ハ一切之ニ附與セス且之ヲ命スルニ當テハ必ス三頁以上ヲ命シ一体ノモノヲラシム(第十五章ヲ着ル可シ)

學監若シ疾病等致故ヲ以テ退職セント欲セハ其事由ヲ縷述セル辭職表ヲ呈シ以テ其職ヲ退免スルヲ得可シ學務局亦之ヲ轉免スルノ權ヲ有ス

學監ノ人員ハ三名以上ヲ以テ之ヲ決定スト虽モ學務局ノ便宜ニ由リ時ヲツテ之ヲ變更スルヲ得ヘキモノトス

又學務局之ヲ適宜ト視認ムル時ハ學監ノ規律及ヒ其權限ヲ改正増殺スルヲ得ヘシ(十五章ヲ着ル可シ)

斯ノ如ク學務局選命ノ學監等相集マリテ開起スル會議上及ヒ諸事処分ノ章程ニ関シテハ別ニ確定ノ規則アリ後葉之ニ掲載セリ(第三附加条目ヲ着ルヘシ)

若シ二學區以上數學區ノ學務局ヨリ各區普通ノ學校ヲ設立シ之ヲ維持セシ為ノ諸局相聯合

スル片ハ共ニ盟約ヲ立テ以テ合同會社ノ管理
者ヲ命スルノ事ヲ定ムルヲ要ス(第五十二章ヲ
省ル可シ)

學務局所設學校ニ於テ講習スル法教々訓
ノ事

前款既ニ論述スル如リ一千八百七十一年三月
三十一日以後ハ第七章第二章ニ於テ揭示セル
規則ニ遵由シテ管理スルヲ得サル諸學校ハ一
切上下議院ノ補助ヲ受リルヲ得サルモノトス
第七章所示ノ規則ノ如キハ寔ニ法教ノ自由ヲ保

護スルヲ以テ旨トスルモノニシテ其契約ヲ立
ツルヲ尤ノ如シ

凡ソ兒童ヲ學校ニ入ラシムルモ更ニ日曜學
校及ヒ法教禮拜堂等ハ出席セシムルニ至テ
ハ決メ之ヲ妨ケス各々其意ニ任ス可シ

學校中ニ於テ法教旨趣ニ関セル禮式及ヒ教
訓其他該事関涉ノ諸件ハ一切統學院ヨリ制
定セル時間表ニ由テ施為ス可シ及ヒ斯ノ如
キ禮拜式教訓等ニ就キ其父母之ヲ欲セスノ
其講習ヲ旨可セサル兒童ノ如キハ又其意ニ

任セテ之ヲ強ヒサル可シ

學務局ヨリ設立セル學校ニ至テハ以上ノ盟約ヲ遵守ノ嚴肅ニ施行スヘキハ論ヲ俟クス其法教問答書及ヒ法教禮式書ニ至テハ固リ容易ニ教授スルヲ得サル者トス(第十四章ヲ參看ス可シ)

就學兒童輩謝金ノ事

學務局ノ設立ニ係ル所諸學校ニ就學セル兒童ノ謝金ハ統學院ノ批准ヲ經テ該局所要ノ負額ヲ論シ之ヲ定ム(第十七章ヲ參見可シ)

然ト虽モ家資ノ貧困ナルヨリ其謝金ダモ納ムルヲ得サル者アレハ之ヲ寛假シテ六ヶ月以上ニ踰ヒサル間ハ其謝金ノ全額或ハ幾分ヲ宥免スルヲアル可シ(第十七章ヲ參見可シ)或ハ公立初學々校ニ就學スル為メニ其學区内ニ住ム所ノ兒童ニシテ而カモ斯ノ如キモノアルモ其亦其全額若クハ幾分ヲ免シ學務局ヨリ代ツテ之ヲ納ム可シ

公立初學々校兒童ノ為メ斯ノ如キ処分ヲ為スハ學務局權内ニ在リト虽モ該局ノ意見ヲ以テ

規則等ヲ制定スルヲ得サルベシ

抑學務局ヨリ貧困ナル児童ヲ憫恕シテ其謝金
ヲ豁免シ其父兄ニ代テ之ヲ納ムルノ大旨ハ濟
貧稅地ノ扶助トナシテ其父兄ヲ救ハンガ為メ
ニハ非ラスシテ但其重ニスル所ノ者ハ児童教
育ノ專一ナルヲ以テナリ第十七章第二十五章
ヲ參看ス可シ

學務局ハ又統學院ノ批准ヲ經テ學生ヨリ謝金
ヲ要セサル所ノ學校ヲ設立スルヲ得可シ故ヲ
以テ貧民窮人ノ夥キ土地アリテ是等ノ學校ヲ

法

設立スルノ適當ナリト視為スモノアル中ハ乃
千之ヲ設立ス可シ第二十六章ヲ看ル可シ

學務局ヨリ則家ヲ立テシメ其児童ヲメ勉メ
テ就學セシムル事

學務局ハ凡ソ五歳以上幼十三歳以下児童輩ノ
父母者ヲメ家則ヲ設ケ以テ其児童ノ勉學ヲ檢
束セシムルヲ得可シ苟モ家則ヲ定ムル片ハ兒
童タルモノハ至當確實ノ辨解アルニ非レハ決
メ之ヲ忽ニスルヲ得ス終始ナク作輟ナク一意
之ニ遵由スルヲ要ス

就學法

規則等ヲ制定スルヲ得サルベシ
抑學務局ヨリ貧困ナル児童ヲ憫恕シテ
ヲ豁免シ其父兄ニ代テ之ヲ納ムルノ大
貧稅地ノ扶助トナシテ其父兄ヲ救ハシ
ニハ非ラスシテ但其重ニスル所ノ者ハ
育ノ專一ナルヲ以テナリ第十七第二十
ヲ參看ス可シ

學務局ハ又統學院ノ批准ヲ經テ學生ヲ
ヲ要セサル所ノ學校ヲ設立スルヲ得可
以テ貧民窮人ノ夥キ土地アリテ是等ノ

設立スルノ適當ナリト視為スモノアル
キ之ヲ設立ス可シ第二十六章ヲ省ル可

學務局ヨリ^家則チ立テシメ其児童ヲ

テ就學セシムル事

學務局ハ凡ソ五歳以上幼十三歳以下兒
父母者ヲメ家則チ設ケ以テ其児童ノ勉
東セシムルヲ得可シ苟モ家則チ定ムル
童タルモノハ至當確實ノ辨解アルニ非
メ之ヲ忽ニスルヲ得ス終始ナク作輟ナ
クニ遵由スルヲ要ス

其至當確實ナル辨解トハ以下數條ノ者ヲ言フ
モノニシテ凡ソ児童ノ他ニ於テ善良ナル教育
ヲ受ケ必シモ更ニ就學スルトヲ要セサル者若
クハ痼疾ニ罹リテ勉業ス可クナル者其他實際
已ムヲ得サル度故アル者或ハ其児童住宅ヨリ
假令捷徑ヲ取ルモ三里ニ踰ルノ距離家則ニ依
テ確定スル者中ニ就學スヘキ學校ノ設ケ無キ
者等ハ其事情ヲ視察斟酌シテ始メテ之ヲ聽可
スヘキナリ

又家則ニハ児童輩ノ就學スヘキ時間ヲ定メ其
他學校ニ於テ法教禮拜ヲ執リ及ヒ法教々訓ヲ
受クルヲ欲セサル児童ヲ策制シ或ハ其父母ノ
関スル所ノ法教會社ニ於テ拜禮式ヲ執行セシ
カ為ノ恣ニ就學セサル者ヲ留メ或ハ力作勞役
ニ使用セラルル児童ノ教育ヲ整正スル為ニ設
ケタル者トス
凡ソ児童ハ家則ノ条款ニ從ヒ教育ヲ受クルヲ
以テ本分ト為ス可キモノナリト虽氏其十三歳
以下十歳以上ニ達スルモノハ女王親差検査官
ノ視察ニ由リ就學ノ務ヲ免シ或ハ全ク學校ニ

關係ナキモノタラシメ或ハ時アツテ上校スル者タラシムルコトアリトス

家則ハ亦概シテ之ニ遵守セシムルヲ得ナルモノトス何トナレハ貧困ナル児童ハ學校謝金ヲ免シ若リハ之ヲ預備セシメ又ハ其家則ヲ犯セリ者アツテ罰金ヲ課スルコトアリ加之此條款ノ如キモ時アツテ變更斟酌スルコトアルヲ以テナリ

家則ハ統學院ヨリノ批准ヲ經タル後更ニ公會ノ論決ニ由リテ其聽可ヲ得ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ナルモノトス而シテ其准許ヲ得ン為メニ統學院ニ呈スル以前一月ヨリ少ナカラサル間ニ於テ抄録ヲ刷行シ検査ノ為メ之ヲ以テ學務局ニ送致ス可シ而メ速ニ之カ稟告ヲ廣メ其抄録ノ如キハ毫モ報酬ヲ受納セスノ之ヲ納税人ニ付與ス可シ且其批准ヲ經タル家則ハ統學院報告中ニ記載ス可キモノトス家則ニ皆犯セシキハ贖罪錢ハ其罪科毎ニ五シルリングヨリ多カラサルヲ法トス(第七十四章ヲ省ル可シ)

工業學校ニ関涉セル學務局ノ權限ノ事

若シ學務局ノ評決論定ヨリ必湏急務ナリト認
視スルニ至レハ則チ統學院ノ批准ヲ經タル後
一千八百六十六年間発行ノ工業學校條例ニ遵
由シテ工業學校ヲ設置建造シ而メ之ヲ維持保
護スルヲ得ヘシ然リト虽モ斯ノ如キ設立ニ係
ル所ノ學校ハ女王家執政ノ管轄ニ歸スルモノ
トス而メ其執政管轄ニ從フノ方法ハ第二十八
章ノ旨趣ニ從フテ設立セル工業學校ニ於ケル
モノト同一ナリトス(第二十八章ヲ看ル可シ)

其他亦純粹ノ工業學校費用金ニ就テ助力寄附
ヲ為サシムル權限ノ如キモ學務局ニ附與セウ
レタル処ニシテ而メ若シ一縣地内ニ一學務局
ヲ設置セハ則チ斯ノ如キ助力ニ関涉セル公會
ノ權利ハ廢絶スルモノトス(第二十七章ヲ看ル
ヘシ)

前款既ニ論辨セル如ク學務局ノ所論ニ於テ便
宜至當ト考定スルアレハ則チ有司ヲ撰擧シテ
之ニ職掌ヲ授ケ之ヲシテ純粹ノ工業學校ニ入
ラシムヘキ兒童輩ヲシテ法官二人ノ檢視ヲ受

ケシメ而ル后該局ノ然カスル所以ノ意見所由
ヲ以テ一般ニ公告セシム可シ(第三十六章ヲ看
ルヘシ)

學務局ノ過誤失錯アルニ方リ之ヲ知分ス
ル事

重大緊要ノ權利ヲ以テ統學院ニ委托セラル
所以ノモノハ則チ學務局ノ過失ヲ生スル際ニ
當リ成文律ノ揭示セル所ニ由テ必ス統學院ノ
指令ニ服從セシムルモノト為シカ為メ癸セシ
所ノ議論ヨリ起原スルモノトス

左ノ諸件ノ發露スル時ニ於テハ設若ク多少ヲ
辨解ヲ費ヤシ縷々ノ口實アルモ断然過失アル
者ト確定セサルヲ得ス

一若シ統學院ヨリ送致セシ所ノ所要タル公立
學校供給充備ノ処分ニ就テ學務局ニ向ヒ指
令スル所アラシニ該局ハ荏苒苟且漫然之ニ
着手セス遂ニ十二月間ヲ經過スルニ至ルモ
ノ其一ナリ(第十一章ヲ看ル可シ)

二若シ統學院ヨリ學務局ニ送ルニ所要ヲ以テ
シ該局ノ設立ニ係リタル所ノ學校キシテ益

盛大ヲ極メシメ實効ヲ奏シ羨果ヲ収メシメ
 ン為メ及ヒ該校維持保護ノ法ヲ講シ永久遠
 大ノ目途ヲ立テシメン為メ等ニ関シテ其職
 務ヲ修メシメンヲ要シ或ハ公立學校ノ數
 ヲ増殖シ或ハ其供給預備ヲ充足セシメン
 ヲ指令スルニ當リテ學務局茫然之ニ注意セ
 ス曾テ該院ヨリ定メラレタル三月以上ノ時
 限中ニ於テ其着手ヲ怠タルモノ即是十リ第
 十八章第十五葉ヲ省ル可シ

三若シ學務局ノ所設ニ係リタル所ノ學校ニ於

テ此條例ニ依テ定メラレタル規則ト背馳ス
 ル所ノ所為及ヒ此規則ヲ奉行スルニ怠リタ
 ル所為ノ發覺セシ時第十九葉ヲ省ルヘシハ
 明確ナル証左ノ的然辨解スルニ足ルモノア
 ルニ非ナレハ該局員及ヒ學監ヨリ其他該局
 附屬ノ吏員ニ至ルマテ進退黜陟等都テ該局
 ノ行フヘキモノニ非ラストス只當サニ一切
 統學院ノ指令ヲ仰クヘキナリ第十六章ヲ省
 ル可シ

若シ既ニ統學院ヨリ一學務局ヲ以テ過失ヲ犯

セル者ト公告セシキニ於テハ更ニ他人ヲ選ビ
 五名ヨリ少ナカラス十五名ヨリ多カラサル人
 ナシテ該局員ノ職ヲ継カシム可シ而メ斯ク他
 人ニ命セラレシ以上ハ其以前該局員タリシ者
 ハ其任ヲ免レ其職ヲ退キタルトハ論ヲ俟タス
 (第六十三章ヲ省ル可シ)且ツ新ニ斯ノ如ク命セ
 ラレタル局員ノ勤勞ニ報ユルニハ學校資本金
 ヨリ分與スルヲ法トス(第五十四章ヲ省ル可シ)
 其過失全ク修治シテ除却セラルニ至レハ則
 チ統學院ヨリ學務局員ヲ命スルハ亦猶初回撰

舉ノ方法ノ如ク更ニ局員ヲ撰擧スルノ命ヲ下
 ス可シ而レモ事草率ニ起リ皆其緒ニ就クニ非
 ルヨリハ獨リ統學院ニ由テ姑ク局員ヲ命スヘ
 キモノトス(第六十三章ヲ省ル可シ)
 茲ニ亦預メ定ムヘキモノ有テ存セリ乃チ若シ
 統學院ノ意見ニ於テ學務局ハ過失ヲ犯シタリ
 ト考察スルカ或ハ其職務ヲ修整セサル者ト認
 視シテ至當ノ処分ト論決スレハ該局中現ニ存
 スル所ノ局員ヲシテ退職セシム可シ而シテ其
 闕員ノ如キハ新ニ之ヲ撰擧シテ其任ニ充テ其

職ニ代ラシム可シ統學院ヨリ此等ノ權利ヲ以テ施行スル復件ノ如キハ素ヨリ重且大ナル者ニ屬スレハ毎年特別ノ報告中ニ掲載シ洽ク江湖ニ知ラシム可シ就中議院ハ直ニ上申セシト要ス

初回撰擧ヲ行フノ際ニ當リ其方法処分ヲ誤マリ濫撰輕擧スル所アルカ若クハ將ニ成立セントスル學務局ヲシテ衰頹廢絶セシムルノ憂アレハ則チ統學院ヨリ之ヲ審判処決スルト既ニ成立セル學務局ニノ過失アリシ若

學子

ト同視シ同一法ヲ以テ之ヲ処断ス(第三十三章ヲ省ル可シ)

聯合學區ノ事

統學院ニ於テ其適宜ヲ見ルトアレハ接近セル學區二三ヲ聯合スルモ亦妨ケ有ルトナシ聯合學區ヲ設クルハ無要ニ學校ヲ増殖スルノ弊ヲ除キ又之カ為メ要スル所ノ冗費ヲ省減スルニ足リ加ルニ隣區ノ景状ニヨリ學事比較ノ均一ヲ得ント欲スルハ又能ク正シク之ヲ為スヲ得可シ

以下十

職ニ代ラシム可シ統學院ヨリ此等ノ權利
ヲ施行スル要件ノ如キハ素ヨリ重且大ナ
ニ屬スレハ毎年特別ノ報告中ニ掲載シ
湖ニ知ラシム可シ就中議院ハ直ニ上申
ヲ要ス

初回撰擧ヲ行フノ際ニ當リ其方法処
マリ濫撰輕擧スル所アルカ若クハ將ニ
セントスル學務局ナシテ衰頹廢絶セシ
ノ憂アレハ則チ統學院ヨリ之ヲ審判
ル丁既ニ成立セル學務局ニノ過失アリ

ト同視シ同一法ヲ以テ之ヲ処断ス(第二
章ヲ着ル可シ)

聯合學區ノ事

統學院ニ於テ其適宜ヲ見ル丁アレハ接
學區二三ヲ聯合スルモ亦妨ケ有ル丁ナ
聯合學區ヲ設クルハ無要ニ學校ヲ増
ノ弊ヲ除キ又之ヲ為メ要スル所ノ冗費
スルニ足リ加ルニ隣區ノ景状ニヨリ學
ノ均一ヲ得ント欲スル中ハ又能ク正シ
為スヲ得可シ

聯合學區

院ヨリ此等ノ權利ヲ以
ハ素ヨリ重且大ナル者
報告中ニ掲載シ洽ク江
議院ハ直ニ上申セシ

ニ當リ其方法処分ヲ誤
アルカ若クハ將ニ成立
シテ衰頹廢絶セシムル
院ヨリ之ヲ審判処決ス
務局ニメ過失アリシ者

テ之ヲ処断ス第三十三

見ルトアレハ接近セル

亦妨ケ有ルトナシ

無要ニ學校ヲ増殖スル

要スル所ノ冗費ヲ省減

ノ景状ニヨリ學事比較

中ハ又能ク正シク之ヲ

以下十号教育雑誌、外、知事力

統學院ニ於テ其聯合學區ヲ編成スルヲ決定スル片ハ之ヲ先ツ其各區中ニ公布シ之ヲ聯合スル所以ノモノハ學度ヲシテ各區一般ノ便宜ヲ得セシメンカ爲ノ何々ノ目的ヲ以テ之ヲ知分スト言フヲ知ラシムルヲ要ス而シテ若シ人アリ其聯合ノ事ニ関シ心裡ニ不平ヲ懷リカ如キ者アル片ハ公然其意見ヲ陳述シテ更ニ討議ヲ請フヲ得セシム如斯シテ其所論ヲ商議シ了レハ曩キニ統學院ニ於テ該區學校設立ノ便宜ヲ計リ本院所決ノ目的ヲ公布セシ如ク其決

議スル所ヲ以テ再ヒ之ヲ宣布スルヲ得ヘシ蓋學校設立便宜ノ爲ノ要スル所ノ費用ニ関シ論議ノ未タ決セサルニ由テ之カ宣布ノ延期ヲ許スノ際ナル片ハ右再議ノ布告モ其期ニ至ルマテ之ヲ猶豫スル亦妨ケアルヲナシ又統學院ニ於テ既ニ學區聯合ノ議ヲ決シ將ニ着手セントスルニ到レハ先ツ其區内學校設置ノ便宜如何ヲ確定セサル可ラス而シテ之ヲ爲スハ其聯合スル所ノ學區各自ニ関セス一ツニ聯合全區ノ平積ヲ以テ之ヲ論定スルヲ緊要トス

統學院ニ於テ聯合學區編成關係ノ重要務ヲ施行スルヲハ夫ノ條例発行ノ初年ハ勿論其以後ト虽此事實ノ適宜ヲ視ル所ハ何時ヲ論セス之ヲ行フヲ得ヘシ蓋條例発行ノ初年後ニ於テ聯合學區ヲ編成セントスル所ハ必ス先ツ其旨ヲ公布シ假令故マツテ遷延スルモ三月以前ニ於テセサルヲ得ヌ加之其未タ公布セサルニ及テ其旨ヲ上申シ且之ヲ公議ニ附ヌ可シ第四十三章ヲ見ルヘシ

既ニ一回學區ヲ聯合スルノ後ハ之ヲ以テ一個

ノ學區ト見做ヌ可シ又其聯合ニ編入シタル諸學區ニ代換ヌ可キモノヲ設置ヌ可シ

統學院ニ於テ編成スル所ノ聯合學區ハ該院ニ於テ後之ヲ解散セント欲スル所ハ逆復々分解スルヲ得可キモノトス(第四十二章ヲ見ルヘシ)統學院ニ於テ聯合學區ヲ編成シ或ハ解散スルノ布令ヲ發シ為メニ異論ノ生スルヲアルモ其發令後既ニ數閱月ノ後ニ在ル所ハ其所論ノ可否ニ関セス之ヲ遵法ノ者ニアラストシ視ル第四十四章ヲ見ルヘシ

學務局ニ於テ設制スル所ノ事務章程ハ聯合學
區學務局ニ於テモ亦之ヲ施行ス可キモノトス
聯合學區ノ學務課設置ノ方法ハ本書第十葉ニ
於テ之ヲ論セリ就テ見ル可シ又其編成セシ聯
合學區ノ名稱ハ統學院ノ指令ニ從ツテ之ヲ命
スルヲ法トス第四十六章ヲ見ル可シ

統學院ニ於テハ學務局ヲ廢解シ或ハ其章程中
緊要ノ條款ヲ改正シ或ハ院ノ所見ヲ以テ學務
局ヲ設置セシ學區ヲ聯合シ又ハ其區ノ一部分
ヲ聯合學區ニ編合シ又ハ聯合學區ヲ解散スル

コナルニ方リテ學務局ノ權利責任等ヲ論定ス
ルノ權ヲ有スルモノトス第四十七章ヲ見ルヘ
シ

學資賦課ノ事

凡其學區所設ノ學校ニシテ隣區在住ノ児童ノ
為ノニ便宜適要トスルコト屢其例アリ是時ニ方
テハ統學院ニ於テ其事實ヲ監察シ果シテ緊要
タルヲ認可スルハ其児童ノ之ニ入校スルヲ
准シ其學校設立維持等ノ為メニ學資ノ幾部分
ヲ分テ其近隣學區ニ賦課シテ可ナリ

統學院ニ於テ聯合學區ヲ編成スルニ及テハ之
ヲ報告シ之ヲ編成スルノ順序ヲ以テ第二十五
葉ヲ見ルヘシ此課資學區ニ施用スルヲ要ス第
五十一章ヲ見ルヘシ

統學院ハ其報告順序ノ事ニ於テ既ニ衆令ノ後
ト虽氏賦課ノ指令ノ如キハ更ニ之ヲ變換シ之
ヲ廢停スルノ權アリ

學區ノ既ニ學校ノ設ケアルモノニシテ其學務
局ニ於テ學資賦課ノ事務ヲ擔任ス可キ委員ヲ
撰挙スルノ方法ハ本書第十葉ニ詳説ス

學費ノ事

此ノ條例ニ由ルニ凡テ學務局ノ學費ハ其學務
資金ト稱スル所ノ資本金ヲ以テ之ヲ辨スルヲ
法トス各學校生徒ノ月謝及ヒ議院ノ許可ヲ得
テ他ヨリ借債スルモノ其他都テ學務局ニ於テ
募集セル金額ハ悉皆工ノ資本金ノ中ニ收入ス
何時日ヲ問ハス必要ノ要件アリテ學校資金ノ
欠乏スル所ハ統計局ニ於テ該地ノ計費中ヨリ
其補金ヲ消支ス可キモノトス

ヲキスホルトヲ除クノ外諸縣ノ統計局ハ即チ

皆該縣ノ會議所タリ獨リチキスホルドノ府ニ
於テハ之ヲ該地ノ政廳ト為ス首府又ハ濟貧稅
地ノ縣地所屬ニアラザルモノニ於テハ其地ノ
監吏者之ヲ兼務ス倫敦府ニ於テハ「ゴニミス」
ヨ子ルス、キブ、セウ、カールス」館則其統計局タリ首
府監督條例ノ甲号ニ編入セザル濟貧稅地ニ於
テハ該地ノ會議ニ於テ之ヲ務ム同乙号ニ編入
セル區ニ於テハ其區ノ扱所之ヲ司トル同丙号
ニ編入セル地ニ於テハ裁判主務官又ハ租稅官
吏又ハ幹事其他該地ノ主務ヲ司トル者之ヲ務

「チキスホルド」ノ外ハ諸縣皆定數ノ稅額アツテ
縣學資又ハ縣學費ト稱シ常例ノ貢稅ヲ賦課シ
以テ預メ其用ニ充備ス而ルニ獨リ此「チキスホ
ルド」ニ於テハ該地ノ學務局ヨリ随時別ニ之カ
費用ヲ課収スルヲ法トシ常例ノ定稅アルナ
シ又濟貧稅地ニ於テハ往々府縣廳ノ得テ管理
ス可ラザルモノアツテ自然此學費ニ乏シキモ
ノ多ク又倫敦街中ニテハ府中ノ集金アツテ若
干ノ學資ヲ準備シ又府廳監督條例ノ「乙」兩号
ニ記載セシ濟貧稅地ニ在テハ凡テ學校ノ資費

ハ領地一般ヨリ貢納セシムルヲ例トシC号ノ如キハ皆一千八百六十七年府廳制定濟貧條例ト改正條例トニ由テ學資金課収ノ法則ヲ定ムルアリ第四章ヲ觀ルヘシ

學務局ハ其用度ヲ詳記シテ之ヲ統計局ニ稟申シ所要ノ額貢ヲ出サシム統計局其申狀ヲ受ケ賬目ノ惣額ヲ精算シ之ヲ學務局中ノ會計課ニ交與ス

然レモ其學費金ハ元ト定額アツテ之ヲ課収スルモ亦定時アルモノナルカ故ニ臨時之ヲ要ス

ル片ハ統計局其資金ヲ準備セサルヲアルモノトス然リト虽モ其所要ノ額數ハ統計局必ス之ヲ交付セサルヲ得サルカ故ニ臨時ニ之ヲ課出セシメ又ハ定額ヲ増加スルノ權ヲ有ス只左之右之トモ統計局ヨリ其不足ヲ補ハサルヲ得サルモノトス第五章ヲ見ルヘシ

又聯合學區ニ於テハ凡テ學校資金ノ故乏ヲ補足スルヲハ該區一般各地々租ノ高卑ニ比例シ彼是平等ニ課収スルヲ要ス第五章ヲ省ル可シ

又倫敦府學務局所要ノ學資惣額ハ一千八百六十九年地價條例發行以來一般所行地價目録中登錄セシ納稅額數ニ比例シ府中各學區濟貧稅地等ニ分課シテ之ヲ派給セシム若シ又此目録ノ行ハレサル時ニ於テハ府廳定制稅額ノ例規ニ從テ之ヲ課スルヲ法トス蓋學務局ヨリ右申狀上ノ額數ヲ要スルニ方リテハ府廳同一ノ權理ヲ有スルモノニシテ否サレハ其稅額ニ定數アルヲ以テ遂ニ得テ之ヲ課收ス可ラサレハナリ第二十七章ヲ省ルヘシ

凡他ノ學區ヲシテ此學區ノ學費ヲ出サシムヘキトアル片ハ同シク申狀ヲ作テ其費用ヲ精細ニ記騰シ先ツ該區ノ學務統計兩局ノ中ニ稟申スルヲ法トス第五十五章ヲ見ルヘシ又統計局ニ於テ右學務ノ申狀ヲ受クルニ方リ故アツテ其金額ヲ消支スルヲ能ハサル片ハ學務ニ於テ別ニ吏員ヲ置キ之ヲ課收ス可キ權ヲ有ス其法先ツ適宜ノ額數ヲ定メ後來監督ヨリ些少ノ費用ヲ課シ来リシ昔ニ就テ更ニ其費用ヲ増課シ出サシム蓋學務ヨリ寺院所屬ノ地

ニ於テ費用ヲ課収スルモ亦此法ヲ用フ而シテ
其吏員ハ既ニ之ヲ委任サルレハ稅額地價等ノ
簿書ヲ始メ其地ノ稅額ニ關係セル證券書類ヲ
調査スルヲ以テ第一着手スルヲ要ス第五十六
章ヲ見ルヘシ

會計簿及ニ會計查閱法

學務局ノ會計簿ハ濟貧事務局ノ指令ニ依テ編
成スル所ノモノニシテ第一註解ヲ每歲三月二
十五日九月二十九日ノ兩期ヲ以テ全數ヲ結算
シ而シテ其半歲ヲ終ルノ後十四日間ニ於テ學

務ノ調査ヲ經長官ノ印信ヲ受ク可シ而シテ后
更ニ濟貧事務局ノ查討官ニ委シテ其檢閲ヲ受
ク可シ蓋此檢閲ヲ受ルカ為メ所費ノ用金ハ學
務局ヨリ之ヲ償フヲ法トス而シテ何ノ時其地
ニ於テ此檢閲ヲ受ケ可キヲ定メ右十四日間ヲ
以テ之ヲ報告ス是ニ於テ出稅人中此會席ニ列
ナラシムヲ欲スル者ハ出會ヲ得セシム抑其查
討官ナル者ハ會計簿ノ条款ヲ定ムルニ方テ公
私費用ノ分限ヲ別キ之ヲ算計ス可キ人ヲ選任
スルヲ得ヘク簿書證券等ノ文例ヲ定メ公布ス

ルヲ掌リ又濟貧稅地集稅ノ時ニ及ヒ動モス
レハ物議ヲ生シ故ヲ以テ書類家什等ヲ徵収ス
ルヲアルニ當リ之ヲ區處スルノ權カチ有スル
モノトス然レモ其查計官ノ定ムル所若シ當チ
得サルモノアツテ下ニ不便ヲ受クルハ濟貧
事務局ノ條例ニ由テ之ヲ歎訴シ其所定ノ法ヲ
改ムルヲ得ヘシ第六十章ヲ見ルヘシ

註解第一學務局ノ會計簿ニ就テ濟貧事務局
ヨリ発行セシ指令ハ附錄二百六十八葉ニ記
載ス

而シテ查計官既ニ其簿書ヲ檢閲シ了レハ則チ
之ニ捺印シ三十日ヲ過キサル中ニ學務局ニ於
テ統學院ノ所要ニ從ヒ別ニ出納ノ記録ヲ編成
シ統計局ノ各員及ヒ區内濟貧稅地監事人ニ與
ヘ又統學院ニ上ス而シテ后其記録中ハ要略ヲ
摘寫シテ其區内所行ノ新聞紙ニ記載シ以テ世
間ニ廣告スヘシ是ニ於テ一般ノ人民苟モ此學
稅ヲ出ス可キモノ皆此新聞ニ由リ僅ニ六ツヤシ
ス日本十ニ錢ヲ費シテ一冊ノ記録ヲ領スルヲ
得ヘシ第六十二章ヲ見ルヘシ

又學校ノ資本金ヲ以テ濫リニ用度ヲ浪費シ其金額查計官准許ノ外ニ出テ、過分ノ金額ト為ル氏之ヲ償ハシカ為メ會計簿中ニ別款ヲ加条シ以テ之ヲ証フルトアルハ學務局中之ニ關係ノ吏員ハ長官屬官ヲ問ハス二十磅一磅ハ日本四円八日計四以内ヲ限り濫費金額ニ二倍スルノ贖錢ヲ出サシムキ法トス第六十一章ヲ見ル可シ

公立初學々校々長ノ土地ヲ公買スル方法事
 凡統學院ノ允許ヲ得テ初學々校ヲ設立セント欲スルハ校長及ヒ有志者ノ為メニ學室校地

共之ヲ買辦スルノ便宜ヲ得セシメシカ為メニ
 地土賣買條例ヲ設制シ苟モ私ニ賣買スル地ニ非サルモノハ必ス此條例ニ照シテ公買スルヲ法トス然レモ時アツテハ必シモ之ヲ買却セスシテ他ノ保証ヲ以テ地土ヲ借貸スルトアリ總テ校長ノ之ヲ買借スルニ方テハ右ノ地土賣買條例ト校地條例トニ照會シテ以テ之ヲ処分セシム第ニ拾一章ヲ見ルヘシ

國王親差ノ監察官ハ之ヲ除キ尋常監察官學
 校巡視ノ事

今學務局管轄外ノ初學々校ニ於テ尋常監察官
ノ監視ヲ受ケ宗教上而已ナラス兒童學藝ノ檢
査ヲ經ント欲スルハ一年間一兩日ヲ期定シ
テ監察官檢査ノ日ト爲シ而シテ其期日ヲ校中
ニ知ラシメ十四日以前ニ於テ之ヲ大書シ顯然
校内ニ揭示スヘシ

而シテ其日ニ及ヒ監察官ノ學校ニ臨視スルニ
當テハ時間ヲ限テ專ラ宗教上關係ノ旨趣ヲ講
シ之ヲ兒童ニ授ケ以テ監官ノ視察ニ備フヲ例
トス是故ニ其父兄ヲ始ノ兒童ノ未タ宗教上ノ

訓誨ヲ受ケ得サルモノハ必シモ當日上校ヲ要
セサルトトス第七十六章ヲ見ルヘシ

寄附物ヲ使用スル事

統學院ハ學校寄附ノ事ニ関シテハ必シモ一千
八百六十九年発行ノ學校寄附條例ニ據ラズシ
テ院ノ定議ヲ以テ時宜ニ應シ公會ヨリ之ニ寄
附スルトヲ允許ス可キ特權ヲ有ス蓋之ヲ允許
スルニ當テハ先其校ノ幹事人ニ高議シ得失可
否ヲ詳論シ果シテ寄附セサル可ラサルヲ見レ
ハ則チ之ヲ准シテ贈附セシム既ニ此方法ヲ以

テ之ヲ処分スル所ハ尚夫ノ學校寄附條例ニ由
ルモノ、如ク必ク有益無害ヲ証スルニ足ル可
シ

上申狀ノ事

一千八百七十一年一月一日前ノ例規ニ據ルニ
首府ニ於テ學務局ノ長官ヲ擇任スル所ハ其庸
任當日ヨリ四閱月ノ中ニ於テ統學院へ呈上ス
可キ上申狀ナル者アリ其狀中ノ條款ハ前段(第
四葉)既ニ之ヲ示説スト虽モ特ニ此一回ニ止マ
ラズ後日ニ至テ更ニ統學院ヨリ之ヲ要スルコ
ト

アリ然レモ一年間一回ヲ踰フルコトアルニハア
ラス(第六十七章ヲ見ルヘシ)故ニ今某地ニ於テ
學務局ヲ創置スルコトアルハ必ク別ニ此上申狀
專擔ノ官負ヲ置カサル可ラス(第六十九章ヲ見
ルヘシ)

一般検査ノ事

一般検査關係ノ事務ハ亦既ニ前条第六葉ニ詳
説スル所ナリト虽モ學務局於テ其學區内ノ為
メニ有益ヲ計ル所ハ夫ノ監察官ノ上申スル所
ノ冊子ヲ以テ之ヲ局中ニ儲ヘ冊子ヲ用井テ縣

テ事務ヲ管理スルニ在リ而シテ統學院ニ於テ
檢査事務ノ費用ヲ処分スルハ或ハ之ヲ學務
局ノ費用トシテ學區中ヨリ出サシムルアリ又ハ
檢査ヲ諸ノ所ノ人ニ就テ自ラ之ヲ課出スルヲ
正當ト視為スモノヲシテ償却セシムルアリ

公會寄附ノ事

夫レ寄附ナルモノハ學校ノ造營修繕等ノ事
ルニ當リ之ニ助力スル所ノモノニシテ而シテ
時ニ之ヲ得ルモ常ニ得ルヲ能ハサルモノタリ

蓋其寄附中事情ニ由テハ統學院ノ所要ニテ信
印ノアルモノニ非カレハ受ケサルヲアリトス
一千八百七十年十二月廿一日以前ノ法此ノ如
シ(第九十六章ヲ見ルヘシ)抑此初學々校造營修
繕等ノ莫ノ為ノニ寄附ヲ為スルノ法則ハ附錄
二百四十九葉ニ詳ナリ

又一千八百七十一年三月三十一日以後ハ學校
ノ為メニ寄附ヲ為スモノアルヲナシ蓋當時ノ
條例中ニハ初學々校寄附ノ事ヲ載セサルヲ以
テナリ第二葉及ヒ第九十六章ヲ參看スヘシ

故ニ初學々校ニ於テ寄附ヲ要スルコトアルハ
條例ノ外其時別ニ統學院ノ指令ヲ得テ約束ヲ
定ムルニ非ナレハ能ハス

又當時ニ於テ人皆更ニ新律ヲ発行シ後來ノ考
正律ニ代ヘント欲スル者アリ註然レモ成文
律第九十七章ニ由ルニ一千八百七十一年三月
三十一日以後ハ宗教上ノミナラス一モ寄附ヲ
為ス可ラサルモノトシ人ノ自勤ヲ以テ出金ニ
又ハ生徒ノ謝金其他公會ノ寄附金ノ外ニテ例
年納ム可キ至當ノ所得ヲ除キテハ決シテ過分

ノ納金ヲ得ヘカラサルモノト確定セリ其註解
第一一千八百七十二年ノ新律書ハ附録二百十
六葉ニ記載ス

且右ノ日限後ハ必シモ學校ニ於テ宗教上ノ訓
誨ヲ為シ以テ寄附ヲ得ントヲ要スルコトヲ為サ
ルモノトセリ第九十七章ヲ見ルヘシ

然レモ初學々校ニ校長タルモノハ該校ヲ管理
保存セシカ為メニ之カ方法ヲ監定シ其約條書
ヲ作り書中ニ公會ノ寄附ヲ得ヘキ為メ必要ノ
條款ヲ定載スルヲ要ス第九章ヲ見ルヘシ

又下条示ス所ノ一法ハ又是一種ノ方法タリト
 虽氏既ニ學務局ニ於テ預備ノ資金凡ル學校ニ
 於テハ敢テ此等ノ方法ヲ要スルト無カルヘシ
 盖其方法ハ則チ下条示ス所ノ如シ
 今學務局ニ於テ年ノ九月二十日ヲ過ルノ後統
 計局ヨリ交付スル所ノ金額ノ甚タ不足ニシテ
 之ヲ精算スルニ地租一磅金ユトニ三「ヤンス」ノ
 比較ニ過キス通計二十磅ニ及ハサルヲ以テ其
 學務局所屬ノ學校生徒ノ人員ニ分算スレハ一
 人僅ニセ「シル」リング六「ヤンス」ニ過キサレノミ

是ヲ以テ到底費用ニ足ラサルノ實ヲ具陳シ
 之ヲ統學院ニ稟申スルハ則チ學務局ニ於テ
 更ニ公會ヨリノ寄附金ヲ増額セシメ必ス二十
 磅金ノ金額ヲ充テ一生徒ユトニセ「シル」リング
 六「ヤンス」ニ當ル可キ金額ヲ得セシム可キ処分
 アルヘシ蓋其生徒ノ人員ヲ算スルニハ統學院
 ノ簿上ニ名字アル者ニ非サレハ縱令上校スル
 者ト虽氏敢テ加入セサルヲ法トス此ノ如キ方
 法ナルカ故ニ夫ノ學務ニ預備ノ資金アル以上
 ハ必シモ要ス可キニ非サルナリ

蓋又統學院ニ於テ寄附關係ノ諸法ヲ定メ當時
所行ノ律書ニ代用セント欲スルハ先ツ其文
案ヲ公會兩院ニ示シ該院ノ點檢ヲ經為メ一
月許ヲ過スノ後ニ非サレハ發行ス可クナルヲ
法トス第九十九章ヲ見ルヘシ

凡某學務局所轄ノ學區中從來定例ノ寄附ヲ受
ケナル學校ニ於テ統學院ノ該校ヲ視ルト之ヲ
必要ナラサルニ附スルモノ、如キハ其校長ハ
學務局ヨリスル者タリト虽モ取テ寄附ノ請求
ヲ准ストナシ蓋此ノ如ク寄附ヲ許サ、ル學校

ハ一事一件細大ノ事情ヲ詳記シ別ニ申狀ヲ作
リ逸年之ヲ公會兩院ニ稟申スルヲ要トス第
九十八章ヲ見ルヘシ

雜事

一千八百九十三年ヨリ一千八百六十九年ニ至
ルマテ一般行ハル、所ノ救濟條例ニ拠テ考レ
ハ統學院ナルモノハ該條例ニヨツテ寄附ヲ受
ケタル學校ノ為メ大ニ感激セル有志者ノ集合
シ以テ該院ヲ成スモノタルヲ見ルニ足レリ第
七十八章ヲ參看スベシ

校地條例ニ掲載セル學頭或ハ女學頭職業上ノ
事ニ至テハ實ニ學務局ノ管理スヘキ所ニシテ
且其學頭ノ退職後再ヒ其校ニ復スル時ニ於ケ
ルモ亦然リ第八十六章ヲ參者スヘシ
凡人ノ毎ニ學 税ヲ出ス所ノモノハ設若ヒ臨
時須要ノ時ニ方テ別ニ出金スルコトアルニ非ラ
ナルモ故アツテ學務局附属ノ文卷ヲ假借シ按
筆抄録センコトヲ欲セハ學務局其所要ノ書籍ヲ
貸與シ繕閱スルコトヲ得セシム若シ異議ヲ主張
シ之ヲ妨クル者アレハ五磅金ニ過キサル贖罪

金ヲ出サシムルコトアリ第十七章ヲ參者スベ
シ

學務局書記官ニメ局員選舉ノ時ニ方リ不當ノ
異議ヲ主張スル等ノモノハ五十磅金ニ過サル
贖罪金ヲ追徴ス第八章ヲ參者スベシ又故
意ニ他ノ發言者ニ模倣シ伴リテ他人ノ名ヲ假
稱スルモノハ二十磅金ヲ追徴ス第八章十九章ヲ
參者スベシ或ハ又自ラ其非ヲ熟知シテ尚他人
ニ模倣シ伴リテ投票スヘキ權利アルモノハ名
ヲ僭稱シ若クハ投票紙ヲ擬造贗作シ若クハ撰

擧ノ目的ヲ妨害シテ之ヲ隠昧ニ帰セシムルヲ企テ
若クハ故意ニ規則ニ背馳シ以テ贖罪金ヲ出ス
ニ至ルモノハ五十磅金ニ過ル贖罪金ヲ追徴
スヘシ若シ之ヲ贖フテ能ハサルハ六ヶ月ニ
踰ヘサル期限ヲ以テ入獄セシム第九十章ヲ參
省スベシ

又汗行ヲ以テ汗行トハ賄賂ヲ納ルレ其他品行ノ卑劣ナルヲ公會ノ撰
擧ルニ與カサルコトヲ罪ヲ獲ルハ二磅ニ過ル贖
錢ヲ出サシム且ツ六年ノ間ハ此條例ニ從ヒ
撰擧ヲナスコトアルモ投票發言スルコト得サレ

シム市會公會ノ撰擧ニ於ケルモ又然リ第九十
一章ヲ參省スベシ

此條例ニ由リ其贖罪金ヲ徴収スルコトハ速ニ之
カ処分ヲナスコト可トス「ヴイクトリヤ」王律合書第
四十三篇十一二兩号ヲ見ルヘシ但其収贖ノ處
分ヲ施スニ及テハ審判官二員之ニ臨ミ其判官
ノ目前ニ於テス第九十二章ヲ參省スベシ
首府縣濟貧稅地人統學院國王監察官教師父兄
初學々校學堂長老集會堂學費出稅人公會寄附
等ノ語ハ第三章ニ於テ其意義ヲ辨ス

其他條款ノ必ス注意スヘキモノハ第七十九章
濟貧稅地及學區内ノ地價ヲ確定スル方法ニ関
スルモノ又第八章布令ヲ公頒スルトニ関ス
ルモノ第八十一二章証券布令等ニ鈐印シ及ヒ
其宰ノ理法ニ関スルモノ第八十三章統學院ノ
命令願望等ニ関スルモノ第八章地方定法
學務局ノ事務ニ関スルモノ第九章每歲統學院
ヲ前年中此條例ニ遵由シテ處決セシ所ノ申
狀ヲ公會兩院ニ示サシムル等ノ事トス

緒言畢

一千八百七十年制定初學教育條例

「^ウクトリヤ」女王律令書第七十五篇三十三
十四兩号ヲ見ルベシ

英吉利威勒士兩國公立初學々校教育條例

一千八百七十年八月九日發行

此條例ハ當時「^ウクトリヤ」女王ノ英敏明断ヲ以
テ制セル所ニシテ其他公會中貴族ノ教院政院
ト平民會院トノ協同獎勵セシ力ニ依テ完成
得シ所ノモノニシテ下ニ擧ルモノハ即是ナリ

第一章題名ノ事

此條例ヲ命シテ一千八百七十年制定初學教育
條例ト名ツク題名則是ナリ

第二章 境域ノ事

此條例ノ行ハル、所疆界ヲツテ蘇格蘭愛倫等
ニ於テ施行スルヲ得ス

第三章 諸語解ノ事

此條例中各語辭ノ意義ヲ示ス即下ノ如シ
首府トハ一千八百五十五年所定府廳監督條例
ニ從ヒ府廳ノ管轄ニ屬ス可キ地ヲ總稱ス
一千八百五十五年所定府廳監督條例ニ從フ

ニ府廳ノ管内ニ歸ス可キ地境ハ即下ノ如リ
ニシテ其中濟貧稅地ニ屬スルモノハセント
メーリーボーンセント、パンクテス、ランベス、セ
ント、シヨール、シハノーベル、スクワル、セント、
メリー、イースリントン、セント、トリコナード、シヨ
ール、デッ、チ、パーダント、セント、マッ、チウ、ヘスナ
ル、グリー、イ、ン、セント、メ、リー、ニウ、イ、ン、ト、レ、サ、
在州ニケンベル、ウ、エル、セント、ジ、エ、ト、ム、ス、ウ、エ、ス
ト、ミ、ン、ス、ト、ル、セント、ジ、エ、ト、ム、ス、
ウ、エ、ス、
シ、ヨ、ン、ク、レ、ル、ケ、ン、ウ、エ、ル、
チ、エ、ル、シ、ト、セント、メ、リ

テ一千八百七十年制定初學教育
題名則是十リ

ノ事

ル、所疆界ヲ以テ蘇格蘭愛倫等

ルヲ得ス

ノ事

辞ノ意義ヲ示ス即下ノ如シ

八百五十五年所定府廳監督條例

管轄ニ屬ス可キ地ヲ總稱ス

十五年所定府廳監督條例ニ從フ

肉ニ歸ス可キ地境ハ即下ノ如リ

濟負稅地ニ屬スルモノハセント

ンセント、パンクナス、ランベス、セ

ルシ、ハノーベルスクワル、セント、

リントン、セントトリコナトドシヨ

トダントン、セント、マッチウ、ヘスナ

セント、メリトニウ、セント、レガ

ル、ウエル、セント、ジエトムス、ウエス

ル、セント、ジエトムス、エント、セント

ルケン、ウエル、チエル、セント、メリ

以下說明

ーアボットケンシントン「セ」ンールーキーミツ
 トルセックス「セ」ントシヨールジヤマルテイル
 カウスウ「ル」イ「バル」モンド「シ」セ「ン」ト、ジヨ
 ルジイン「セ」エスト「セ」ント、マンチン、イン「セ」フ
 ー「ル」ツ「ハム」レット「チ」フ、エンド、チルド、タウン「ウ」
 ー「ル」ウ「チ」ロ「ー」ゼ「ル」ハイ「セ」セ「ン」トジヨ「ン」ハン
 プステ「ー」ト等是ナリ即條例中 部ニ在ルモ
 ノ又學區ハ「ホ」ワイ「ト」チヤ「ー」ペ「ル」ウ「エ」スト「ミ」ン
 ス「ト」ル「グ」レ「ネ」チ「ウ」ツ「ウ」ル「ス」ハ「ツ」ク「ネ」ト「セ」ン
 ト「ジ」ヤ「イ」ル「ス」ホ「ル」ボ「ル」ン「ス」ト「ラ」ン「ド」ア「ル」ハ

ハム「テ」イム「ハ」ウス「ポ」ト「プ」ラ「ル」セ「ン」ト、セ「ビ」ウ
 ル「ス」フ「レ」ム「ス」テ「ー」ド、エンド、ル「イ」ス「ハム」セ「ン」
 ト、チ「ラ」ー「ブ」等ニシテ即條例中 部ニ在ルモ
 ノ其他傍屬地「騎」塔「地」例「傍」等「フ」ト「稱」スルモノ
 ハ「セ」エ「ル」レ「ジ」エ「ー」ト、チヤ「ル」チ「チ」フ「セ」ント、ロ
 ー「ト」ル「セ」チヤ「ー」タ「ア」パ「ウ」ズ「イ」ン「ネ」ル「テ」ン「プ」
 ル「ミ」ッド「ル」チン「プ」ル「リ」ン「コ」ル「ン」ス「イ」ン「グ」レ「ー」
 ス「イ」ン「ス」タ「プ」ル「イ」ン「フ」ル「ニ」バ「ル」ス「イ」ン「等」即
 條例中 部ニ在ルモノ是ナリ
 右 部ニ在ル學區中濟貧稅地其他邑落等ノ

ボワイト、キヤーペル學區ニ屬スルモノハ「セ
ント、メリー、ボワイド、キヤーペル」クライスト、
キヨルチ、スピタル、フイールツヲ始メ「ミツド
ルセックス郡中」「アル」チドゲ「ト」セント、ポートル
フ「ホーリトリニキーマイノリス」「アル」プレシ
ンクト、チフ、セントカセライン「ハムレット、チ
スマイル、エンド、ニウタウシ」リベルチー、チス
ノルトン「フォルゲート」「アル」チルド、マーチレリゲラ
ウン「ト」ジストリクトオストウ「ウエル」等ニシテ
其「ウエスト」ミニストル學區ニ於テハ「セント、マ

ルガレー「セント、ジヨン、ゼ、エバン」ジエリー等
アリ又「グレネツ」學區ニハ「デプトホルド」「バツ」チハ
合「セ」セント、ナイク「チラス」「チ」フトホルド「グレ
ネツ」等アリ又「ワンドオルス」學區ニ在テハ「ク
ラフム」「ト」チングラベニ「ストレー」ナハム「セ
ント、メリー、バツテルシー」「チ」ペ「チ」「チ」ク「ワンドウオルス」
「アードネー」「チ」ハ「合」「チ」稱「プト」等ニシテ「バツクネー」
學區ニ屬スルハ「バツクネー」ト「セント、メリー」ス
ト「クニユー」イント「ント」ナリ又「セント、ジヤイ
ル」學區中ニ在ルハ「セント、ジヤイル、スイン、ゼ

ンガールツ「セント、ジヨール、ジフルーム、大バリ
 ーノ西地トシ「ホルボルニ「學區ニ於テハ「セ
 トアンドリウ、ホルボルニ「アバツエバルス「セ
 ントジヨール、ジ、セマルタル「シットルセツクス
 郡中「セントセプルクル「サフロニビル「ハート
 ン「ガーデニン「イリーレンツエンド、イリー
 プレーズ「リバルチー、チスグナス「ハウスヤル
 ド「等「ストランド「學區ニハ「セント、ペンワール
 セ「ントポール「エーベレット「ガートン「セントジ
 ヨン、ゼバチスト「サボイ「即チカボイン「クリ「セン

トメリール、スラント「セントクレメント「デ
 ス「リベルチー「オス、セロルス「等「アツテ「アルハ
 ム「學區ニハ「セントピートル「エンド「セントポ
 ール「ハンメル「スシス「及ヒ「フール「ハム「アリ又
 「ライム「ハウス「學區ニ於テハ「セント「ペン「ライ
 ム「ハウス「セント「ジヨン「チ「ピング「セント、ポ
 ル「シ「ド「ウ「エ「ル「ハム「レット「オフ「ライ「ト「クリ「フ「等
 ナリ又「ボ「フ「ラル「學區中ニハ「アール、セント「ツ「ボ
 プ「ラル「セント「メリー「スト「ライ「ト「ホル「ド、ル
 バ「ウ「セント「レ「チ「ナル「ド、グロム「リー「等ニシテ

セントサビウルス學區内ニハ「クライストチ
ヨルチト」セント、サビウル「ゼ」リ
合稱ト「アツテ」又「プルムスチード」ルイスハム
ノ兩學區ニ於テハ「チヤルトンホ」キスト、ウー
ルウツチ「プルムスチード」エルトハム「リー」カイ
ドブル「ク」ルイスハム「ハ」ル「リ」チ「ハ」ム「チ」ヤ「リ」
フ「ゼ」ハム「レ」ツト「オ」フ「ペ」ン「チ」等「而」シテ「セント」、
ラ「レ」グ「學」區ニ於テハ「セント」、チ「レ」グ「セ」ン
ト、「ト」ー「マ」ス、「サ」ウ「ス」ウ「ル」ク「及」ヒ「セント」ジ「ヨ」ン、
ホルス「レ」ー「ダ」ウ「ン」等ナリ

縣トハ英倫威勒ニ於テ制定セシ縣會規則條例
中第七十六篇第四世維廉王即位後第五年第六
年ノ會議ニ由テ定立スルモノト其改正條例ト
ニ後ヒ分定シ之カ管轄ニ屬スルモノヲ總稱ス
ルナリ

此縣ト名ツクルモノハ特ニ一千八百三十五
年ノ縣會條例中 兩部ニ詳録セシ各縣ヲ
ノ言ナニ非テスシテ其後合併セシ多クノ
縣地ヲ合稱スルモノト知ル可シ
濟貧稅地トハ特ニ濟貧ノ為メニ僅少ノ税金ヲ

ス學區内ニハ「グライス」トチ
「サビウル」ゼ、リ、ゼ、カ、リ、チ、ン、グ、オ、フ
「ブルム」スチード「ルイス」ハム
ハ「チヤルト」ンホ、キ、ス、ト、ウ、
「チード」エルトハム「リ」カ、
スハム「ハイル」リン「ハム」チヤ、
オ、フ、ペ、ン、チ、等、而、シ、テ「セント」、
於テハ「セント」、チ、レ、ー、ブ「セント」、
スウ「ルク」及ヒ「セント」ジ、ヨ、ン、
「等」ナリ

於テ制定セシ縣會規則條例
世維廉王即位後第五年第六
立スルモノト其改正條例ト
管轄ニ屬スルモノヲ總稱ス

モノハ特ニ一千八百三十五

兩部ニ詳録セシ各縣ヲ

スシテ其後合併セシ多クノ

モノト知ル可シ

濟貧ノ為メニ僅少ノ税金ヲ

成七

濟貧稅地ノ譯

貢納スル地ヲ言フ
 凡ソ寺領及ヒ寺中禮拜堂ノ地ヲ始メ府下村落等ニ在テモ特ニ濟貧稅ノミヲ出スノ地ハ惣テ之ヲ濟貧稅地ト稱ス第七十七章ニ於テ詳説スル如ク一寺領ノ地ニシテ其一半ハ縣内ニ在ツテ一半ハ縣外ニ在ルモ其縣外ノ部分ヲ合セ共ニ濟貧稅地ヲ以テ視ル而シテ其地區域ノ寺院ノ所為ニ由テ別ル、モノ、如キハ條例上敢テ之ヲ顧ミス
 人トハ社會夥伴等ヲ合稱スルノ名タリ

統學院トハ内閣學事委員ノ貴族ヲ稱ス

統學院ノ長官ハ迺内閣勸學ノ總督ニシテ次ニ副總督ノ官アリ副總督ハ常ニ總督ノ指揮ヲ受ケ且之ヲ輔翼シ若シ總督ノ在ラサルハ事務ヲ代理シ衆貧ヲ指揮スルヲ得可シ
 一千八百五十六年二月二十五日ノ内閣奏令ハ郡臣合議ノ上制定スル所ニシテ「ウイクトリヤ女王律令書第百十六篇十九二十兩号ヲ見ル可シ」

國王ノ監察官トハ統學院ノ諸君ニ應シ國王親

カテ命シテ之ヲ遣シ學校ヲ監察セシムルモノ
ヲ言フ

諸監察官ノ名稱呈書及ヒ巡視セシ學區ノ事
等ハ附録三百四十四葉以下三百五十一葉ニ
至ルノ間之ヲ詳ニス
校長トハ一學校ニ幹タル者ニシテ其學校ヨリ
給俸ヲ受クル者ト自ラ之ヲ為シ他ノ任托ヲ受
ケナル者ト共ニ然カ稱ス

人ヲツテ公立初學々校ヲ設立セシムルヲ熱望
スル件ハ第二十一章ニ據ルニ凡ソ統學院ノ
准許ヲ得テ學校ヲ設立スル件學堂校地等ノ
事ニ於テ其人亦之ニ關係スルヲ以テ之ヲ校
長ト同シク視為スルアリトス

父兄トハ兒童ヲ保守ス可キ保護人ヲ總稱スル
モノニシテ唯父母ノミヲ言フニ非テス

凡テ父母ナリ祖父母ナリ兒童ヲ保護スルニ
當レルモノハ概稱シテ親ト名ツクエリサベ

ス女王律令書第二篇四十三号ヲ參觀ス可シ
初學學校トハ初學ノ教育ヲ專トシ教授スル學
校ヲ言フモノニシテ本校分校共皆然リ故ニ生

徒ノ謝金一週ニ九ペンスニ過クルモノハ其校
ヲ名ツケテ初學々校トセス

凡初學々校ヲ設立シ公立ノ學校タラシメ
ト欲スルハ必ス第七章ノ規則ニ照會シ其
手段ヲ盡サ、ルヲ得ス

學堂トハ凡テ學校所屬ノ家室等ヲ總稱スルモ
ノニシテ教師ノ寓居遊戯ノ庭場一切ヲ學堂
ヲ概稱ス

長老集會トハ濟貧稅地ニ住シ學費稅ヲ納ムル
者ニシテ定立ノ法律ニ遵ヒ長老集會堂ニ出席

スル者ヲ總稱ス

濟貧稅地ノ長老集會條例「シヨ」第三世王
律令書第六十九篇五十八号ハ其示ス所專ラ
會合ノ方法ヲ定ムル者ニシテ凡其住民ノ會
議スルヤ先ツ一般ノ公告ヲ以テ何レノ時何
レノ地ニ於テ聚會ヲ開ク可キヲ報シ必ス
其會日ニ先ツ三日以前ニ於テ之ヲ公告ス
加之右「シヨ」王ノ條例ト「ヴィクトリヤ」女王
律令第四十五篇一号トニ據ルニ其集會ノ事
ヲ公布スルニハ或ハ之ヲ筆記シ或ハ之ヲ印

刷シ又筆印相雜フルトモ其會日前ノ日曜日
ニ於テ未夕神事ヲ始メサルニ及テ寺院中禮
拜堂ノ戸壁等人目ニ認メ易キ処ヲ擇ヒ之ヲ
揭示スルヲ簡要トス然リト虽凡此公告ハ會
日ノ三日前ニ報ス可キ定規ナレハ今之ヲ日
曜日ニ揭示スル件ハ必ス木曜日ニ到テサレ
ハ其衆會ヲ開ク可クサル者ト知ル可シ而シ
テ此會議ノ公告書ハ寺院及ヒ禮拜堂ノ管主
ヲ始メ其濟貧稅地所住ノ正副教師長教師貧
人ノ監督者ニ至ルマテ皆之ニ捺印スルヲ法

トス

又濟貧稅收納ノ公告ハ晚間ノ神事ヲ始ムル
ニ先夕チ六時ノ頃之ヲ寺門ニ揭示スルヲ以
テ可トス是法ハ曾テ「バルニ」地「メトリ」地
兩領主ノ爭議アリシト片裁判官ノ之ヲ行ヒ
後來用井テ律令ト為リシモノナリ
又長老集會ニ於テ投票スル下ノ法ハ「シヨ」
「三世律令書第六十九篇五十八号全第八十
五篇五十九号ト」ウ「トリヤ」女王律令第四十
一篇三十二三十三兩号トニ詳ナリト虽凡

ソ長老集會堂ニ列ナル者ニシテ貧人救助ノ
 為メニ逸年五十磅以下ノ税金ヲ出スモノハ
 其標票ハ一個人ニ當ルモノトシ又事件ノ一
 款ト數項トニ拘ラス五十磅以上七十五磅以
 下ノ税額ヲ出スモノハ其投票ハ二個ノ票ニ
 當リ七十五磅以上百磅以下ナルハ三個ノ
 投票ニ當リ百磅以上百二十磅以下ナルハ
 四個ノ票ニ當リ百五十磅以上ニ上ルハ六
 個ニ當ルモノトス此六個ニ當ルモノハ則チ
 相當ノ極ニシテ何人ノ投票ト虽氏之ニ過ク

ルヲ能ハス凡テ濟貧税地ニ居住シ定額ノ濟
 貧税ヲ納メ来ル者ハ其家産ノ大小ニ由テ投
 票ノ權利ヲ有ス故ニ納税ノ事ニ到テハ敢テ
 異議ヲ出スヲ得ス蓋一千八百六十九年発行
 濟貧税收納條例ニ據ルニ凡地主ハ假令他ノ
 遺産自記受興セシモノヲ建ラリト借地スル
 モノトチ間ハス既ニ濟貧ノ定税ヲ出スハ
 同シク長老集會ニ投票スルヲ得ヘシ第一
 号ノ未段ヲ見ル可シ又二員以上ノ人合同シ
 テ出税スルモノハ各自出税ノ額數ニ依テ投

票ノ權利自ラ差異アリトス而シテ其中唯一
人會席ニ列ナルハ其合同税金全額ノ相當
ナリ以テ投票ノ權ヲ附與ス又一個人ニシテ本
來ノ家産ヲ有シ別ニ職務ヲ得テ^{官等}在其産
ヲ殖スル等兩産ヲ併有スルモノハ二家産ヲ
合スル者ト視為シ二十五磅^ニ投票ノ權
ヲ増加スルヲ得ヘシ

又會社等ニテ諸人ヨリ出税スルモノハ其社
名ヲ用フト^{虽氏}社中執事ノ名ヲ用フト^{虽氏}
其^其代理者タル者^{僧徒}ナリ書記者ナリ其

會席ニ臨ムニ方テハ税額相當ノ權ヲ有シ投
票スルヲ可シ是又其出税相當ノ家産ヲ有ス
ル人ヲ以テ視ル夫レ然カリ投票ノ權利ヲ定
ム何人ニ限ラス之ヲ有セシムト^{虽氏}其長老
集會前三個月以内貧人救助ノ為メニ相當ノ
税金ヲ出セシムル者ニ非サレハ之ヲ得可
クサルナリ又某地^{アツテ}其地主ヨリ出税ス
ル^ハ其金ハ當時設地借地居住者自己ノ出
額ヲ以テ視權ヲ其居住者ニ附ス然レ^氏今又
之カ為メニ一疑問ヲ發シ^{某一地}アリ地主之

ニ居シ且他人借地人アツテ同住スル片此條
例ニ依テ共ニ出税スレハ投票ノ權利モ亦等
シク受ク可キヤ否ト言フ片ハ乃第二十九章
ノ傍註ヲ見テ之ヲ知ルヘシ

又長老會ニ於テ其投票ノ類ノ同一ナルモノ
アル片ハ會長更ニ一票ヲ投シ之ヲ決ス是又
家産ノ大小ヲ監ミ其大ナル者ニ加票ス又既
ニ投票ヲ了ルノ後別ニ投票ス可キ人アツテ
更ニ投票ヲ要スル片ハ會長之ヲ察シ果シテ
再投票スヘキヲ視レハ更ニ関札ノ日ヲ延期

スルモ可ナリ

又首府ニ於テ長老ノ集會スル方法ハ「ヴイクト
リヤ」女王律令書第百十六篇十九二十兩号ニ
詳ナレハ就テ見ル可シ

蓋今學務局置廢等ノ更ニ関シ學費出税人ノ
集會スル片ニ於テハ自ラ方法ノアル有テ上
文所示ノ諸條款ノ如キハ敢テ用ユ可カラサ
ルモノタルヲ了知スヘシ其処置ノ方法ニ
到テハ近年統學院ヨリ布達セシ規則アレハ
必ス之ヲ遵守セサルヲ得ス(本書二百四葉ヲ

見ル可シ

學費出税人トハ一千八百六十九年發行濟貧院
則及ヒ其收税條例ニ從テ多少ノ税金ヲ納ムル
モノヲ總稱スルナリ

貧人學費税條例ト集税條例_{ヴェクトリヤ女王}
律令第四十一篇三十二号ノ第十九章トニ
據ルニ監督者ノ貧人學費税則簿ヲ編制スル
ニ方テハ假令其出税ハ地主ヨリスルモ居住
人ヨリスルモ或ハ地主ノ居住人ニ代リ出税
スルカ如キ共ニ其簿中居住人ノ条下ニ編記

シ都テ居住人ノ出税ヲ以テ之ヲ視ルヲ法ト
ス_中故ニ記簿上若シ其居住人ノ名ヲ脱スル
トアルモ唯掌簿官ノ過失ニ出ルモノト視為
シ居住人ニ關係スルトアラサレハ假令簿上
ニ其名ナキモ猶ホアルキノ如ク同一ノ權利
ヲ有ス可キモノトス

裁判廳近年所定ノ章程ハ「グロスト」キールソッ
プトノ爭議ヲ判シ爾後一定律トナス者_{今某}
地_トツテ之ニ新來ノ居住者アルニ貧人學費
税則集税條例第三章及ヒ該書第四章ノ法則

ニ後ニ長老集會ノ指令ニ由テ其地主ヨリ出
税ス可キニ當リ右新来ノ居住者ノ為ノニ之
カ処分ヲ為スニ於テ大ニ適用スルニ足ルモ
ノトス

又該書第十九章ニ論スル所ノモノハ監督者
ノ税額ヲ課定シ記簿ヲ作ルニ當リ或ハ濫ニ
某名ヲ編入シ或ハ漫ニ除名スル等居住人ノ
身上ニ關係スルヲアルヲ示スモノ而シテ其
第十六章ハ新タニ某地ニ移轉シ来ル人ニ就
テ論スルモノニシテ而シテ其論ノ旨趣ハ譬

ヘハ爰ニ某地居住ノ人アリ未タ税額ノ出金
ヲ全了セルニ及テ他処ニ轉居シ俄ニ無主ノ
地ヲ為スルアリ而シテ其方サニ収税スルノ
時ニ到リテ初ノテ之ニ轉移居住スル者アル
時ハ監督者タルモノ其新来人ノ姓名ヲ税額
簿中ニ登記シ此人ノ此地ニ居住セシハ何ノ
時何ノ日ニ在ルヲ紀タシ一切ノ事情ヲ詳録
ス是ニ於テ其居住人ハ監督者ノ入籍ヲ登記
セシ日ヲ始日トシ税金ヲ出タス可キ一人ト
為リ其始メテ居住セシ日ヨリ収税時期ニ至

ルマテノ日數ヲ算シテ相當ノ稅額決此例ヲ
猶ホ其以前居住セシ人ノ如キ方法ニ由テ定
制ノ稅金ヲ出タサシム然レモ其稅額ニ就テ
若シ異議アルハ前居住者ノ可トスル所ノ
モノト虽モ新來ノ故ヲ以テ再ヒ之ヲ上言シ
公議ヲ請フヲ得ヘシ
又何人ヲ限ラズ假令濟貧稅地ノ施惠ヲ受ク
ルトアリト虽モ其人ハ一個ノ出稅人タルカ
故ニ出稅人ヲ以テ同視シ毫モ投票ノ權利ヲ
妨クルトアル可ラス

公會ノ寄附トハ大不列顛ニ於テ公然ノ教育ト
稱スル要務ノ為メニ公會ニ於テ集収セシ公金
ヲ用井時日ヲ期定セスシテ年々初學々校ヲ補
助スル為メニ贈投寄附スルヲ曰フナリ

第一 學校所要庶事準備法

第四章第一節中學區等ノ事

今此條例ヲ論スルニ當テ先ツ示ス可キモノハ
則第一節中所載ノ區ト曰ヒ局ト曰ヒ稅ト曰ヒ
資本ト曰ヒ齊司ト曰フ是ナリ而シテ其區トハ
即學區ニシテ其局トハ即學務局稅トハ地方定

税ヲ言ヒ資本トハ統計局ヲ言ヒ有司ハ即諸有司ヲ言フナリ

此條例ニ由テ定別スル所ノ學區トハ則首府
縣地及ヒ亦キスホルト中學務局ヲ設置スル
地法^ラ包總スルモノニシテ而シテ唯^クキスホ
ルトト英威兩國中ノ濟貧稅地トハ之ヲ除キ
第三章及第七十一
七章ニ詳ナリト學區ニ關係セザルモノ
トス又聯合學區ナル者アリ第四章ニ於テ
其制措ノ方法ヲ詳ニス就テ見ル可シ
凡首府中學區ノ定制ヲ知ラント欲セハ第三

十七章ニ就テ見ル可ク亦キスホルトノ外諸
縣ノ區別ヲ知ラント欲セハ第二十九章ヲ參
觀ス可シ又其^クキスホルトニ於テハ第九十
三章ヲ見府縣中濟貧稅地ニ於テハ第二十九
章聯合學區ニ於テハ第四十五章ヲ見ルヲ要
ス
又學區中各地定制ノ稅額ト統計局ノ局掌ト
ノ如キハ第五十四章ノ傍註ヲ見テ之ヲ知了
ス可シ

第五章學校ノ需用及ヒ學區中完全ナル公立

學校ヲ置ク可キ事

凡學區アレハ區コトニ必ス公立初學々校供給
ノ準備ヲ全フセサル可ラス公立初學々校ノ事
ハ公第七章程ニ詳説ス
苟モ此供給ノ全キヲ得サルハ地方ニ依リ從
未兒童ノ完全適宜ノ教育ヲ受ケ得サルモノ
如キ終ニ何ヲ以テ之ヲ益スルイテラシヤ故ニ
若シ此供給ノ全カラサルモノアレハ此條例ノ
方法ヲ以テ必ス其缺乏ヲ補足スルヲ要ス
何學區ニ限ラス所謂公立初學々校ノ供給ニ
於テ果シテ完全ナルヤ否ノ疑問アルハ統

學院之カ決答ヲ為スノ責アリ今其處置方法
ヲ知ラント欲セハ宜シク第八章ニ就テ見ル
可シ

嚮キニ「フル」ス「ル」氏ナル者言々ノ事ヲ記載
セシカ同氏ノ言ニシテ「ハン」サル「ド」氏纂輯ノ
論説類書中百九十九篇四十五葉ニ録スルモ
ノアリ今之ヲ斯ニ記セシ其議案ノ言ニ曰ク
余若シ某學區ニ就テ其初學教育ノ完全確實
適宜ノ三ツヲ成就スルヲ見ルハ則其學區
ノ如キハ萬莫間然スル所ナキモノト視為シ

敢テ他ノ状態ヲ按察セズ直ニ去テ他ニ趣カ
シメシ蓋余カ所謂完全ト稱スルモノハ區中
學校ノ多數ニシテ不法ナラサルヲ言ヒ確實
トハ授ケル所ノ學課ノ日常世務ニ適切穩當
ナルヲ言ヒ適宜トハ宗教上ノ教訓ト制止禁
懲トノ法アラスシテ尚能ク父兄ヲシテ異議
ヲ發セシムルコト無キモノヲ言フ加之該區ノ
事情ヲ明察センカ爲メ許多ノ學校ニ就テ能
ク我監察者ヲ招待シ監察ヲ受ケルモノヲ算
計シ以テ該校ノ果シテ善良ヲ得ルヤ否ヲ明

ニスルヲ得タリ蓋其監察者ト稱スルモノハ
公私ヲ論セス政府ノ助力ヲ受ケル者ト受ケ
サル者トヲ問ハス僧侶ナリ俗人ナリ苟モ該
校ニ來視スルモノハ皆之ヲ算入スルナリト
又統學院ヨリ逋迴狀ヲ以テ下ノ如ク告諭セ
シコトアリ曰ク父兄ノ信奉スル所ノ教法學校
ニ於テ教ケル所ト學校ニ於テ授ケル所ト其
趣ノ同シカラサルモノアツテ父兄其子ノ學
校ニ於テ法教上ノ訓誨ヲ受ケルヲ欲セサル
コトアルハ能ク之ヲ斟酌シテ以テ教授スル

ニ非サレハ之ヲ適宜ノ教授ヲ為スモノト視
為ス可ラヌ是故ニ學校ノ情態ノ此ノ如クナ
ルモノハ本来必要ノ保護ヲ盡サズ動モスレ
ハ之ヲ廢止スル等其スルニ之ヲ疵疵ナキ學
校ト謂フ可ラヌト

又學校ハ其區中兒童ノ為メニ有益ナルモノ
ナレハ學校供給ノ費用ハ一切其區中ヨリ課
出スルヲ以テ至當ナリト漫視ス可ラヌ何ト
ナレハ今此條例ニ由ルニ甲學區ノ兒童ニシ
テ便宜ニ由リ乙學區ノ學校ニ入り教育ヲ受

ケシムルヲ得可キ法制スレハ學校設立保持
ノ費用ノ如キハ或ハ二區ヨリ適宜ニ分出ス
可キトアツテ必シテ其區ヲ論セサルモノ無
シトセス尚其詳細ハ第四十九章ト第五十二
章ヲ以テ之ヲ詳明ニス

今學區中公然タル學校供給ノ度ヲ論スルニ
當テハ一千八百七十年統學院ヨリ上申セシ
例年ノ申狀中ニ載スル所ノモノニ由テ之ヲ
論ス可キナリ凡一千ノ人口ニ就テ其中三歳
乃至六歳ノ者ヲ算スレハ概數七十五人アリ

六歳乃至十二歳ノ者八百三十五人アリ學士
 フォーブル氏ノ學校検査委員ノ為メニ各事件
 上ノ標的ヲ論シ其中人口ノ比例ヲ算スルモ
 ノハ凡ソ全人口ニ就テ中等以上ニ屬ス可キ
 人算ヲ計レハ僅ニ七零ニニ就テ一ノミ而シ
 テ此算計ハ他ノ委員有司ノ精算上申セシモ
 ノト符節ヲ合スカ如クナルヲ以テ益其確實
 タルヲ証スルヲ得タリ蓋又各區所要學校
 供給ノ資金ヲ計算スルハ百エトニ五乃至
 十ノ餘金ヲ加算シ以テ預メ準備セサル可ク

ス其由縁ハ何校ト虽氏大概生徒中ニ多少不
 平ヲ懷クモノアツテ全員悉ク出席スルヲ
 テナルヲ以テナリ
 又學校供給費ヲ収ム可キ濟貧稅地ニ於テ人
 口ノ比例ニ就キ造營等ノ寄附金ヲ用フル
 ハ區中全人口六分ノ一ヨリシテ學校造營補
 助トシ寄附セシムルヲ法トス此割合ヲ以テ
 供給セシムレハ大ニ其適宜ヲ得テ實ニ允當
 ノ尺度ト視為ス可キ規則トスルニ足レリ然
 レ氏他ノ學區ニ於テ既ニ第五章ニ示ス所ノ

如ク統學院ニ於テ該條例第六十七章ニ從ヒ
其學區ノ有司ヨリ出ス所ノ上申狀ト監察官
申狀トヲ斟酌シ以テ之ヲ決定ス可シ輒チ
得テ適實ナル供給費ヲ備フルニ足ラシ蓋此
適實ノ供給ト言フモノハ兒童ノ家ニ近ツク
初學ノ校ヲ設立シ宗教上ノ教誨ニ於ケルモ
カメテ其父母ノ嫌忌スル所ヲ避ケ其シテ學
資謝金ヲ出サシメ以テ大ニ兒童ニ益スルニ
到ルヲ言フモノ抑又此條例ニ由ルニ教師ハ
免狀ヲ受ケル者ニ非サレハ右ノ供給ヲ受ケ

可ラスト言ノ理ナシト虽モ然レモ教師長夕
ル者ハ必ス免狀ヲ受ケル所ノ者ヲ要ス可キ
ナリ否サレハ年々公會ノ寄附金ヲ受ケル時
ニ及テ能ク其約束スル所ヲ成就シ得可クサ
ル可シ
又或ル學校ニ於テハ其供給ノ莫ハ特ニ臨時
視察セシ所ノ監察官ノ上申ノミニ由テ之ヲ
決スルアリ是等ノ學校ニ在テハ學校ノ腐穢
ヲ監ミ供給ヲ出ス可キ兒童ノ數ヲ算スルニ
其地ノ大小如何ヲ論スル等ノ事アラヌシテ

如リ統學院ニ於テ該條例第六十七章ニ後ヒ
其學區ノ有司ヨリ出ス所ノ上申狀ト監察官
ノ申狀トヲ斟酌シ以テ之ヲ決定ス可シ輒チ
得テ適實ナル供給費ヲ備フルニ足ラシ蓋此
適實ノ供給ト言フモノハ兒童ノ家ニ近ツク
初學々校ヲ設立シ宗教上ノ教誨ニ於ケルモ
カメテ其父母ノ嫌忌スル所ヲ避ケ其シテ學
資謝金ヲ出サシメ以テ大ニ兒童ニ益スルニ
到ルヲ言フモノ抑又此條例ニ由ルニ教師ハ
免狀ヲ受リル者ニ非サレハ右ノ供給ヲ受ク

可ラスト言ノ理ナシト虽氏然レ氏教師長夕
ル者ハ必ス免狀ヲ受クル所ノ者ヲ要ス可キ
ナリ否サレハ年々公會ノ寄附金ヲ受クル時
ニ及テ能リ其約束スル所ヲ成就シ得可ラサ
ル可シ

又或ル學校ニ於テハ其供給ノ莫ハ特ニ臨時
視察セシ所ノ監察官ノ上申ノニ由テ之ヲ
決スルアリ是等ノ學校ニ在テハ學校ノ廣狹
ヲ監ミ供給ヲ出ス可キ兒童ノ數ヲ算スルニ
其地ノ大小如何ヲ論スル等ノ事アラスシテ

只目下ノ外形ニ就キ器具門戸火爐ノ位置等
 ナ定ムルノミ
 新定律書第十七款所示學校廣幅ノ法制ハ九
 モ生徒ノ多寡ナル學校ニ就テ定ムルモノナ
 レ氏今之ヲ斯ニ載シ以テ學校結構ノ廣狹ヲ
 知ラシム蓋其尺數ハ平方立方ノ兩表面ヲ以
 テ定ムルモノ抑學校ハ其結構タル必ス堅牢
 ニシテ明亮乾燥且空氣ノ能ク流通スルヲ要
 トス而シテ中ニ適宜ノ器什ヲ具シ適任ノ吏
 員ヲ置キ之ヲ使用セシム其校ノ最大ナルモ

ノハ内部八十立方尺ノ廣幅ヲ下ル可ラス尋
 常ノ學室及ヒ一階級ノ生徒學習スル學室ニ
 至テモ該校全生徒ノ數ヲ平均シ一人コトニ
 ハ平方尺ノ坐席ヲ占有スルヲ得セシム此
 準備ナキ學校ノ如キハ年々公會ノ扶助寄附
 ナ受クルヲ能ハサルモノトス
 今又一疑問ヲ發シ禮拜堂ヲ用井テ假リニ學
 校ト為ス中ノ如キモ是亦一個完全ノ學校ト
 視為シ例年ノ寄附ヲ受ク可ヤト曰フ中ハ統
 學院於テ以下言フ所ノ如ク指令ス可キモノ

トス曰ク凡ソ人皆其禮拜堂タルヲ知テ敢テ
他事ニ假用ス可ラサルモノタルヲ論スル
時ハ決シテ之ヲ學校ト為スヲ許サズ然レ
凡其以前之ヲ建築スルノ始ハ學堂ト為ス可
キ目的ニシテ後暫ク神事ニ用フルモノナル
時ハ今之ヲ學校ニ復用スレハ則其區中ヨリ
供給維持ス可キ學校ト視為ス可キナリ蓋之
ヲ學校ト為スニ及テハ先ツ室中ニ限隔ヲ為
シ神事ニ用フルモノト校務ニ充ルモノトヲ
分別シ其限隔ノ如キモ頂格ニ達シテ嚴ニ之

ヲ區劃ス然レ凡其限隔ニハ布幕等ノモノヲ
用升後復タ除去シ易カラシムルヲ要ス其他
學校所用ノ器械什具ヲ排置ス可キ別室ヲ設
ケ加之學校所用ノ際ハ神事ノ為メニ生徒ノ
勦業ヲ妨害スルヲ可ラス

第六章 學校需用ノ欠乏ヲ補備スル事

今一學區ヲツテ此條例中定立ノ方法ヲ遵行シ
公然供給ノ額額ヲ全フスル能ハスシテ供給欠
乏スルヲアルニ方テ統學院ニ於テ其不足ノ仔
細ヲ公告シ尚後章第八第九兩章ニ示スカ如ク

其父之ヲ補充ス可キ方法ナキハ其學區ノ為
ムニ新タニ學務局ヲ設置シカクテ欠乏ヲ補フ
可キ手段ヲ盡シム可シ既ニ之ヲ為メ學務局
ヲ新置スルノ後ニ於テ尚欠乏ナキ能ハサルハ
ハ統學院ヨリ更ニ指令ヲ下タシ學務局ノ實務
ヲ振起シ百事此條例ノ方法ニ標準シテ施行セ
シムルヲ法トス
學務局ニ於テ失措アルニ當リ統學院之ヲ処
置スルノ方法ヲ知ラント欲セハ須テク第六
十三六兩章ヲ參看ス可シ

第七章公立初學々校ヲ管制スル規則ノ事

允^ニ初學々校^ニ義^ハ詳^ニ第三章^ニシテ次条所示ノ如
キ規則ヲ以テ管制シ得可キモノハ此條例ニ所
謂公立初學々校ト言フモノ是ナリ

一千八百七十一年三月三十一日以後ニ到テ
ハ此章所示ノ規則ニ從テ管理ス可キモノニ
非ナルヨリハ何等ノ學校ト虽モ敢テ公會ノ
寄附ヲ得可ラサルモノトス(第九十六章ヲ見
ル可シ)而シテ學務局ニ於テ設立スル所ノ學
校ノ如キハ右ノ規則ニ注意セサル而已ナリ

ス宗教上ノ問答ヲ為スヲ須ヒス又ハ宗教書
中著名ナル儀式書ノ如キモ敢テ教授上ニ取
用スルコトナシ尚其詳細ハ第十四章ヲ以テ之
ヲ示ス
「バンドナルド」氏所著論說類書第百九十九篇
四百四十九葉ニ「フォルステル」氏ノ議案ヲ載ス
ルアリ其言ニ曰ク前日學校造營ノ時寄附金
ヲ受クルモノニシテ宗教上ノ事ヲ忽略スル
モノハ余其學校ニ關係スルコトヲ欲セス是等
ノ學校ハ敢テ年々ノ寄附金ヲ受リルノ故ヲ

以テ痛ク之ト争ヒ強テ謹ムルニ到ルハ不可
ナリト

而シテ此公立學校ヲ管制スルニハ次条所示ノ
規則ニ由ラサルヲ得ス(此規則書ハ各地學校皆
校内ニ揭示ス可キモノトス然レモ此規則ニ法
リセサル學校ハ舍テ論セス)今其規則ヲ示ス
左ノ如シ

第一 凡ソ學校ニ入テ久シク上校スル所ノ兒
童ニ就テ之ヲ論スルニ其兒童ノ日曜日學校ニ
出席シ或ハ禮拜堂等ニ出テ又ハ父兄ノ勸誘ニ

應ミテ宗教上ノ教誨ヲ受ケ或ハ其旨趣ニ背馳
シ又ハ其勸誘ヲ為メニ學校ノ出席ヲ常ニセズ
父母ノ信仰スル教派ノ訓誨ヲ受クル等ノ事ハ
敢テ其可否ヲ問ハサルヲ法トス

父兄トハ兒童ヲ看護ス可キ保護人ヲ慈稱ス
ルモノ(第三章ニ詳ニス)而シテ此父母タル者
ヨリ兒童ノ校中ニ在テ宗教上ノ訓誨ヲ受ク
ルヤ否ヲ知ラント欲スルモ又容易ナラサル
モノナレハ若シ其父兄ノ意ノ校中ニ在テ兒
童等若シ宗教上ノ訓誨ヲ受クルヲ欲セザ

ルヲ見レハ書簡ヲ以テ之ヲ陳シ若シハ校長
教師等ニ口演スルモ妨ナシトス

然リ而シテ學校ニ於テハ未タ右書簡口演等
ヲ受ケサルニ方テ若シ兒童ノ宗教上ノ訓誨
ヲ嫌忌スルヲ見ルハ教師能ク之ニ注意シ
其兒童ノ之ヲ厭フハ或ハ父兄ノ意ニ出ルニ
非サルヤ否ヲ洞視セサルヲ得ス

此章ノ後段ニ到テハ元「セルジエントカイモシ」
氏ノ需ニ由テ附録スルモノニシテ特ニ猶太
ト羅馬加特カトノ兩宗ノ兒童ヲ教フル時ニ

川ミ用フ可キ方法タリ

第二 學校ニ於テ教法上ノ訓誨ヲ授ケルハ必

ス課程ノ前後ニ於テ^五期ヲ^六編^七納^八勸^九至^十於^{十一}終^{十二}亦

之ヲ終リニ於テス可シ而シテ其時間ノ定限^{十三}學^{十四}院

^{十五}指^{十六}令^{十七}受^{十八}テ^{十九}之^{二十}ヲ^{二十一}定^{二十二}學^{二十三}堂^{二十四}ニ^{二十五}揭^{二十六}示^{二十七}シ^{二十八}兼^{二十九}テ^{三十}未^{三十一}テ^{三十二}衰^{三十三}廢^{三十四}不^{三十五}カ^{三十六}リ^{三十七}ヲ^{三十八}知^{三十九}テ^{四十}未^{四十一}テ^{四十二}申^{四十三}ス

校課程ヲ開始スルニ當テ^{四十四}法^{四十五}教^{四十六}禮^{四十七}儀^{四十八}及^{四十九}ヒ^{五十}其^{五十一}教^{五十二}訓

ヲ設^{五十三}ケ^{五十四}ル^{五十五}ト^{五十六}ハ^{五十七}禮^{五十八}堂^{五十九}ニ^{六十}午^{六十一}前^{六十二}授^{六十三}業^{六十四}ノ^{六十五}起^{六十六}頭^{六十七}午^{六十八}後^{六十九}終^{七十}業^{七十一}ノ

結局ニ於テ施行ス可キノミナラス尚亦午前授

業ノ首尾及ヒ午後授業ノ始終毎ニ之ヲ行フ可

シ其父母タル者若シ法教上ノ禮儀及ヒ其教訓

ヲ信用セスシテ其子弟カ之ニ從事スルヲ欲セ

サレハ各其意ニ任セ決メ之ヲ強ヒサル可シ然

リト虽モ從來學校成規ノ確定スル所ニメ法教

及ヒ通常課程ヲ併セテ同時ニ之ヲ講習スルニ

當テ只其法教ノミヲ信セサルヨリ全ク其業ヲ

廢シ及ヒ退校セント欲スル者ノ如キハ決メ之

ヲ聽可セス

公立初學々校ニ於テ午前午後ノ授業時間ヲ決

定スルハ學務局若クハ學監ノ權限内ニ歸スル

モノトス而シテ其世俗通常ノ教訓ニ係ル所ノ

課程ハ二時間ヨリ短カ、ラサルヲ要ス且其法

教上ニ関セル課業時間ノ如キハ統學院凡與ツテ指令スル所ニ非ルナリ

一千八百七十一年二月七日以後ハ教育公會幹事ノ會議ニ於テ此章中ノ條款ニ就キ以下登錄スル所ノ定議ヲ採用ス
學校開始課業ラスル云々以下此ニ至ル所ナリ註解ナリ

- 一 一千八百七十一年第四月三十日以後ニ於テ地方ノ検査官初メテ學校ニ到ル所ハ則各所公立初學々校ノ課業時間表ヲ以テ之ニ付與ス可シ

二 検査官ハ各所時間表ニ就テ之ヲ調査シ之

ニ捺印シテ其到達ノ日ヲ記載スヘキモノトス

- 三 検査官ハ能ク時限表ヲ調査シ教教上ノ禮儀及ヒ教訓ヲ執行センカ為ノ定メラレタル時間ニ由テ教育條例第二号ノ第七章ニ相稱フモ即チ午前午後毎ニ二時間以上連續シテ通常世教ノ教訓ヲ設ク可シ

四 検査官ハ法教上ノ禮儀及ヒ其教訓スル為メニ定メラレタル時間ニ於テハ決メ自己ノ議論ヲ吐露ス可ラス又斯ノ如キ教訓上

ノ其情ニ関シテハ一切喙ヲ容ル可ラス唯
其專任擔當スル所ノ者ハ專テ通常世教ヲ
講習スルノ時間ヲ全フシテ其大義ヲ辨明
セシメシニ在ルノミ

- ⑤ 検査官ハ時間表ニ捺印スルノ前ニ於テ能ク其事躰ヲ考定辨知ス可シ (甲) 教育條例第七章程中ニ掲載セル所ノ規條抄録ヲ以テ瞭然其學校中ニ顯示ス可シ (乙) 時間表ハ刷行スルカ或ハ謄寫スルモ其文字ノ如キハ他ノ文字ト區別ス可シ而シテ其抄録ハ諸

校各室内ニ掲示ス可シ (丙) 児童輩其父母ヨリ法教上ノ禮儀及ヒ教訓ヲ受ケシメサ
ル者ハ其法教講習ニ関セル時間中ニ於テ其父母ヨリ更ニ世教上ノ講習ヲ受ク可キ
モノトス

- ⑥ 検査官タル者統學院ヨリ巡視スヘキ告示
アルノ學校ヲ巡察シテ其學校課程時間表
ノ如キ若シ統學院制定ノ者ニ導由セサル
ト查出スル有レハ則チ其事状ヲ詳載シテ
統學院ニ上申ス可シ其諸學校各室内ニ時

間表ヲ表示セサル者モ亦然リ

⑦若シ學生ノ父母タル者及ヒ其保証人タル者五員以上ニシテ其就學時間ノ夏ニ関シ各ヲ統學院ニ呈シテ言ハシテ檢査官ヨリ付スル所ノ時間表ハ此草案ニ符節セスト之ヲ以テ愁訴スル片ハ該院之ヲ受理シ至當ト考定スル片ハ更ニ命令ヲ下シテ之ヲ処分ス可シ

第三何レノ時ヲ論セス學校ハ必ス女王親差檢査官ノ調査ヲ受ク可ク然リト虽凡此檢査官

職務限界ノ如キハ學校中講習スル所ノ法教旨趣ニ付キ討論尋繹スルト及ヒ其意義及ヒ各籍等ニ付キ學生ノ試験ヲ行フ等ノトニハ敢テ及ハサルモノトス

蓋シ此ノ改正附録ノ如キハ學校ニ於テ教法上ニ関シテ之ヲ究問シ或ハ教法ノ知識ヲ以テ學生ヲ試験スル等ニ付テ女王ヨリ差遣セラル所ノ檢査官諸學校ニ至ル者未タ一ノ意見議論ヲ奏スルナキヲ以テ之ヲ防キ遏メント欲スルノ建言各アリテ議旨モ又之ヲ奏言ス

ルモ政府ハ之ヲ取ラサルモノトス其採^用セサ
ル所以ノ者ハ蓋シ検査人ナル者ハ一時其身
ヲ以テ有司トナシ諸學校ヲ点検調査スルモ
ノナレハ萬事ノ是非得失ニ至リテハ決メ與
リ論ス可ラス若シ然ラサレハ却テ各人ノ自
由ヲ妨害スルニ至ルヲ以テナリ
學務局ノ設立ニ係ラサル所ノ公立初學々校
ニ於テ女王ノ検査官ニ非スレ他ノ検査人ニ
由リ兒童輩ノ講習セル教法上ノ旨ニ就キ試
檢スル^ルハ第七十六章ニ詳ニス

第四 此學校ハ毎年上下議院ノ補助ヲ得シ爲
ノニ初學々校教則ヲ實踐シテ後來實効ヲ顯ハ
サントシ維持保護ノ方法尤モ勉メサル可ラス
此事件ニ就テハ第九十七章及ヒ新定律各第
十四條二百十八葉ヲ着ル可シ

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

終